

平成25年度生涯学習・社会教育総合調査研究事業

プレ・シニア世代の社会参加活動に関する調査

報告書

平成 26 年 3 月

青森県教育委員会

はじめに

青森県教育委員会では、本県における生涯学習・社会教育の推進を図るための基礎データを得るため、「生涯学習・社会教育総合調査研究事業」を実施しております。

国の第2期教育振興基本計画では、「自立」「協働」「創造」の三つの理念の実現に向けた生涯学習社会の構築を目指すとし、4つの基本的方向性の一つに、「絆づくりと活力あるコミュニティの形成」を掲げています。地域社会の抱える課題を、その地域のコミュニティにおいて解決していくためには、現役世代から高齢者に至るまで協働して取り組むことが重要であり、超高齢社会の到来を踏まえれば、特に、人生の第2ステージを歩もうとする人々が、その経験や知識・技能を、コミュニティへの積極的な参画により、地域課題の解決等の社会貢献に生かしていくことが重要であるとしています。

本県においても、青森県教育振興基本計画に、「あおもりの今をつくる人財の育成」に係る取組として「豊かな学びと社会参加活動の拡大」を掲げ、県民の生きがいづくりや心豊かな暮らしを支えるため、学習成果を生かした地域活動などにおいて、シニア世代を生かした取組を進めることとしております。

このような状況を踏まえ、本調査研究においては、今後の本県の生涯学習・社会教育の施策立案の基礎資料を得ることを目的として、シニア世代が学びの成果を生かした社会参加活動に積極的に取り組むことができるよう、シニア世代の一步手前にあたる、「プレ・シニア世代」の現状と意識について調査することとしました。本調査結果が、今後の地域コミュニティの活性化に向けた取組の参考となれば幸いに存じます。

最後になりましたが、調査対象者としてアンケートへのご回答をいただいた多くの県民の皆様にご心から感謝し、厚くお礼申し上げます。

平成26年3月

青森県教育庁生涯学習課

課長 中野 聖子

目 次

第1章 調査の概要

1. 調査の名称	1
2. 調査の趣旨	1
3. 調査の方法と回収結果	2
4. 研究顧問	2

第2章 調査の結果

1. 基本的属性（問2, 3）	3
2. 活動や学びへの参加状況（問4, 5, 6）	5
3. 将来の学びや活用・表現の希望（問7, 8, 9）	8
4. 異世代との交流（問10, 11）	11
5. 行政への提案（問12）	14

第3章 考察

1. 現状について	24
2. 意識について	27
3. まとめ	29

第4章 資料

1. 単純集計結果表	31
2. 調査票	35

第1章 調査の概要

1. 調査の名称

プレ・シニア世代の社会参加活動に関する調査

2. 調査の趣旨

平成25年12月、青森県教育振興基本計画が策定された。その中で「あおもりの今をつくる人財の育成」に向けた取組の一つに「地域活動などにおいて、シニア世代を生かした取組」を進めることが掲げられていることから、地域コミュニティ活性化の担い手としてシニア世代がその能力や知識などを生かした地域活動に参画できるよう、地域に係る学習を支援する必要がある。

このことから、今後シニア世代が積極的に地域活動へ参加するための施策を立案するにあたって、現在シニア世代にある方々へ意見を伺うことも大事であるが、よりの確にニーズを捉え、要望に合った計画を立てるためには、これから近い将来シニア世代に進む方々に対し意見を伺うのが効果的であると考えた。

本調査では、シニア世代を60歳以上と定義し、この手前の世代を「プレ・シニア」世代と称し、年齢層を45歳以上60歳未満と定義した。

プレ・シニア世代の県民は、就労の面においては社会の主要な担い手であるものの、地域とのつながりという面では比較的薄い関係しかないと考えられ、今現在どの程度地域とのつながりがあるのか、また、シニア世代となって地域コミュニティの活性化を担う主要な構成層に進んだ際に、これまで培った学びを生かして地域活動へ参加しようとする希望がどの程度あるのかを探るものである。また、調査の結果から地域社会との関わりを豊かにしていくために、シニア世代及びプレ・シニア世代のそれぞれに対し、どのような支援が必要なのかを考察するものである。

3. 調査の方法と回収結果

(1) 調査対象

母集団 青森県に在住の45歳から59歳までの一般県民
標本数 2,000人

(2) 調査方法

上記母集団から無作為（男女バランス、地域バランス、年齢バランスは考慮）に抽出した方へ調査票を送付し、直接記入していただいた調査票を同封の返信用封筒に入れ、無記名で回収する方法により実施した。

(調査業務委託 株式会社サンブラツ・エイティーブイ)

発 送：平成26年1月16日

回 答 期 限：平成26年1月31日までに投函

回収調査票：平成26年2月10日分まで回収

(3) 回収結果

有効回答数（率） 580人（29.0%）

調査不能数（率） 1,420人（71.0%）

－不能内訳－ 住所不明… 15人（1.1%）

無 反 応… 1,405人（98.9%）

(4) 回答者の内訳（率）

[問1 あなたの性別と年齢及びお住まいの地域を教えてください。]

ア 性 別 男性 241人（41.6%）、女性 334人（57.6%）、無回答 5人（0.9%）

イ 年 齢 45歳～49歳 147人（25.3%）、50歳～54歳 202人（34.8%）、
55歳～59歳 227人（39.1%）

ウ お住まいの地区 東青地区 131人（22.6%）、西北地区 62人（10.7%）、
中南地区 117人（20.2%）、上北地区 66人（11.4%）、
下北地区 27人（4.7%）、三八地区 140人（24.1%）、
地区不明 37人（6.4%）

エ お住まいの市町村 市に在住 474人（81.7%）、町に在住 36人（6.2%）、
村に在住 6人（1.0%）、市町村不明 64人（11.0%）

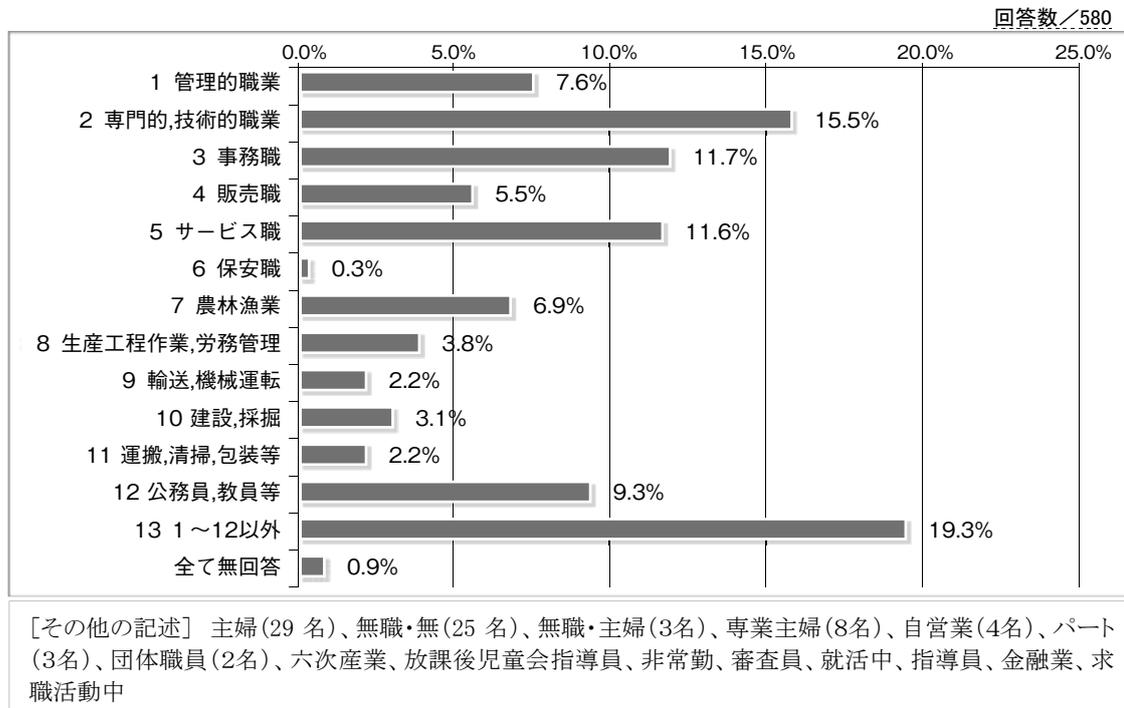
4. 研究顧問

青森公立大学 経営経済学部 教授 内海 隆 氏
弘前大学 教育学部 講師 松本 大 氏

第2章 調査の結果

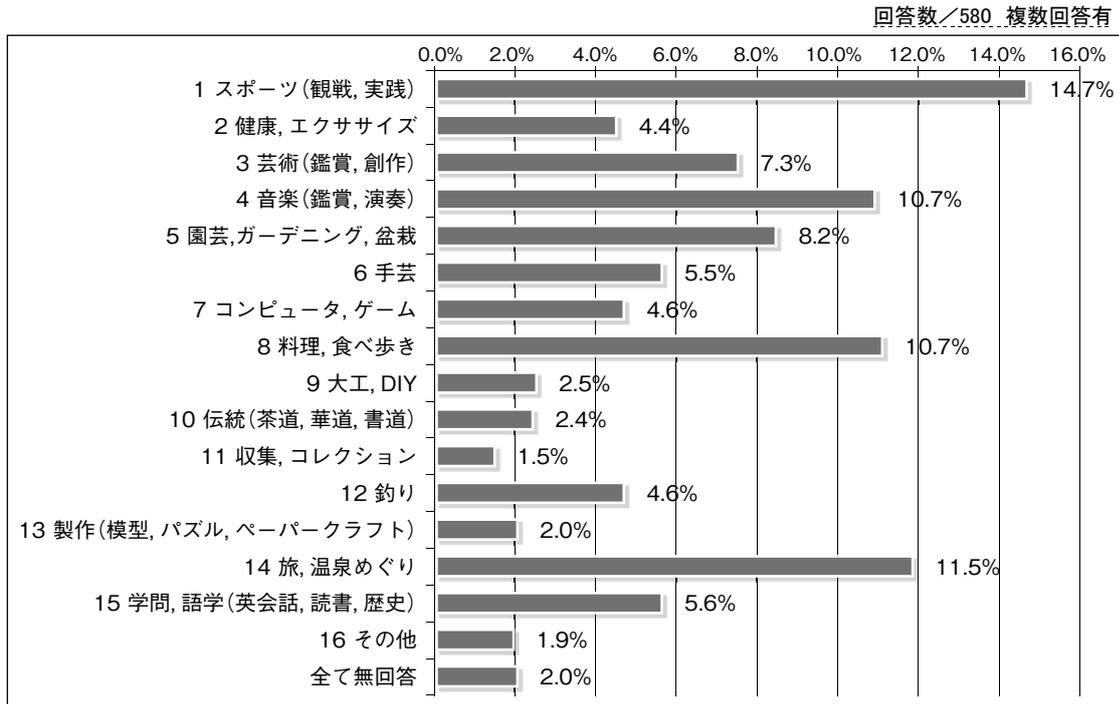
1 基本的属性 (問2, 3)

問2 あなたのご職業について教えてください。(いずれか1つに○)



問3 あなたの趣味と、資格があれば教えてください。（あてはまるものすべてに○）

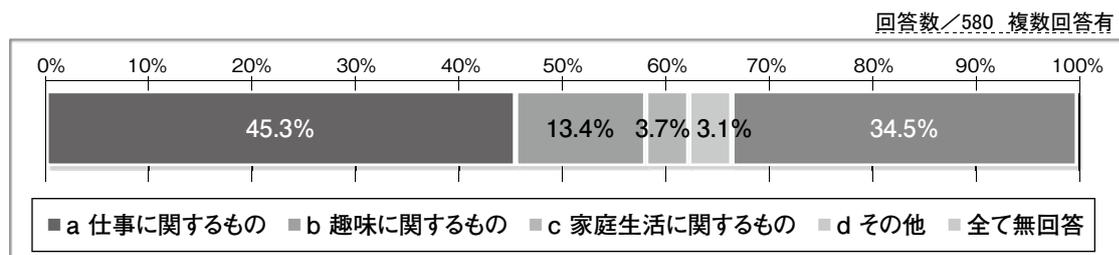
趣味



[その他の記述] ドライブ(3名)、カラオケ(2名)、パチンコ(2名)、福祉、掃除、車、社交ダンス、看護師、囲碁、フリスビードッグ、フリーマーケット参加、バルーンアート、酒、祭り、ナンプレ、ギャンブル、お笑い観賞、ウインドーショッピング

「1 スポーツ(観戦, 実践)」が最も多く14.7%、ついで「14 旅,温泉めぐり」11.5%、「4 音楽(鑑賞,演奏)」と「8 料理, 食べ歩き」がともに10.7%である。最も少ないのは「11 収集,コレクション」1.5%、次に「13 製作(模型, パズル, ペーパークラフト)」2.0%である。

資格



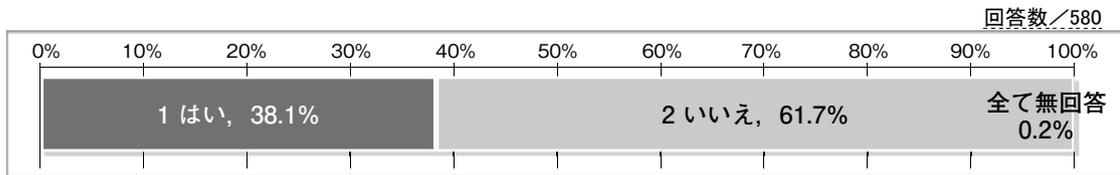
[その他の記述] 情報処理二種、健康管理者一般指導員、教員、火薬取扱主任者、ペン字、秘書検定、ヘルパー2級、フォークリフト、そろばん、スポーツプログラマー日体協公認、Administrator

所持している資格では「1 仕事に関するもの」が最も多く45.3%である。設問は「資格があれば教えてください」であったため、「全て無回答」は資格を持っていないと判断できる。

2 活動や学びへの参加状況（問4,5,6）

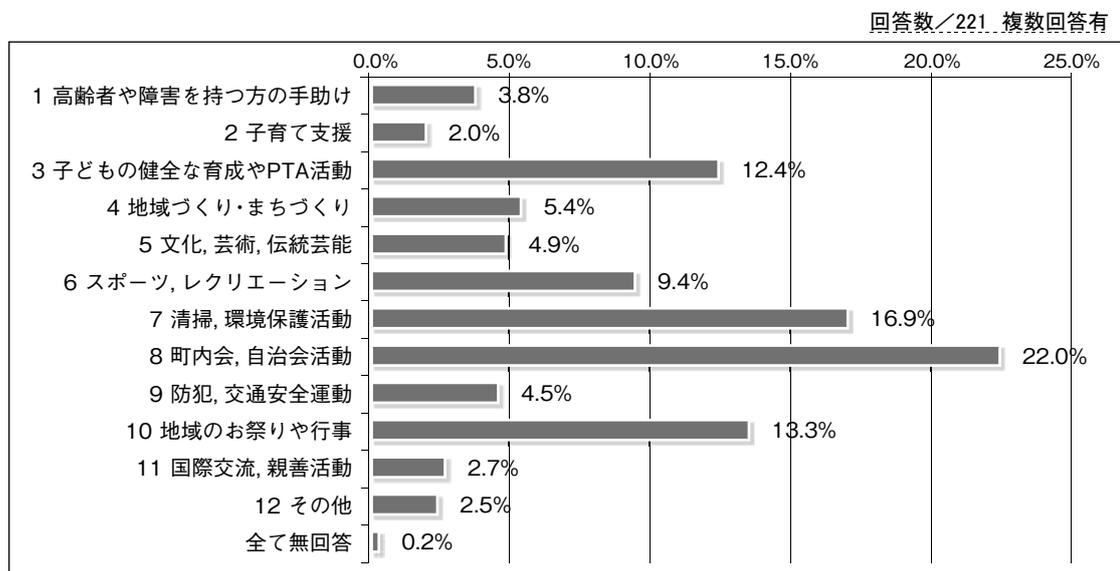
(1) 参加の有無

問4-① 最近（回答日以前の半年間程度）、仕事以外で地域活動や社会貢献活動に参加したことがありますか。（いずれか1つに○）



(2) どのような活動に参加しているか

問4-② 参加したのはどんな活動ですか。（あてはまるものすべてに○）

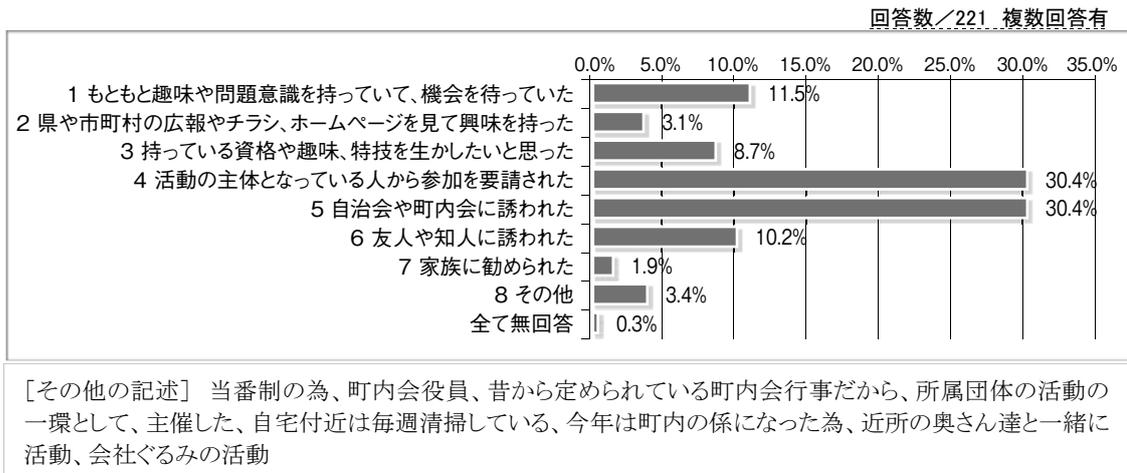


[その他の記述] 町内花だん草取り、花植え、創価学会の座談会、消防団関係(防災)、消防、救護ボランティア、医療関係、ロータリークラブ、ライオンズクラブ、3.11 野田村へのボランティア

「8 町内会、自治会活動」に参加している方が最も多く22.0%、ついで「7 清掃、環境保護活動」16.9%、「10 地域のお祭りや行事」13.3%である。参加している方が少ない活動は、「2 子育て支援」2.0%、「11 国際交流、親善活動」2.7%である。

(3) 活動への参加のきっかけ

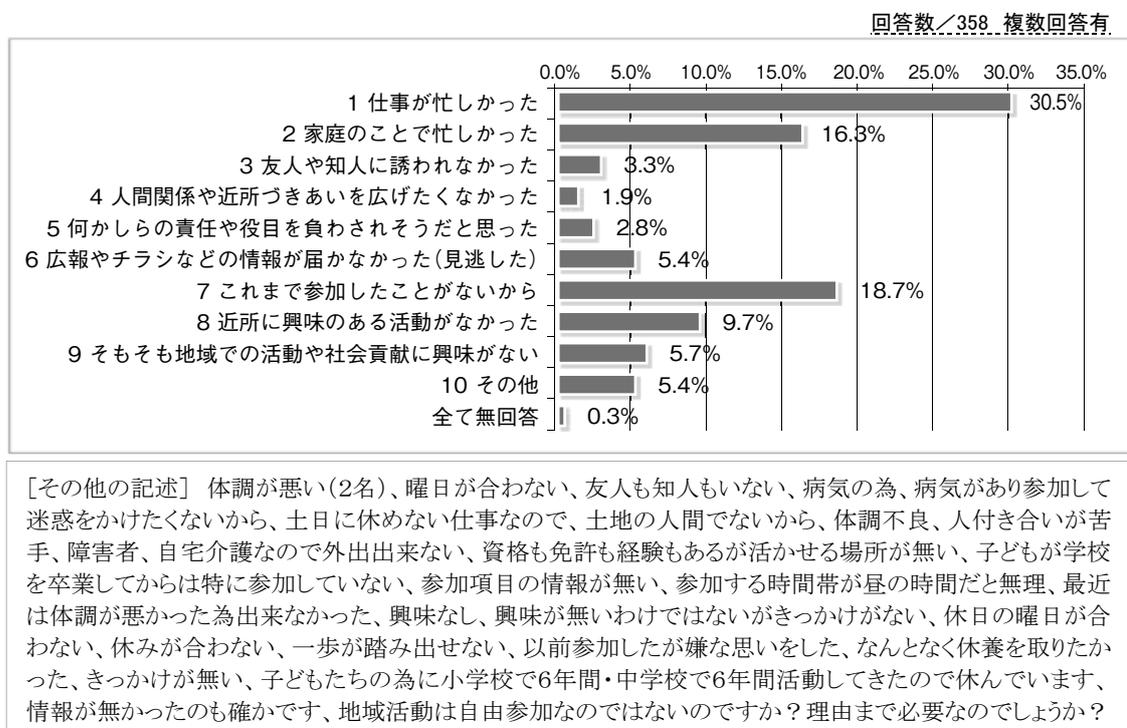
問4-③ 活動に参加したきっかけは何ですか。(2つまで○)



活動に参加したきっかけは、「4 活動の主体となっている人から参加を要請された」と「5 自治会や町内会に誘われた」がともに30.4%で多い。「7 家族に勧められた」は1.9%、「2 県や市町村の広報やチラシ、ホームページを見て興味を持った」は3.1%と活動参加のきっかけになったとする方は少数である。

(4) 不参加の理由

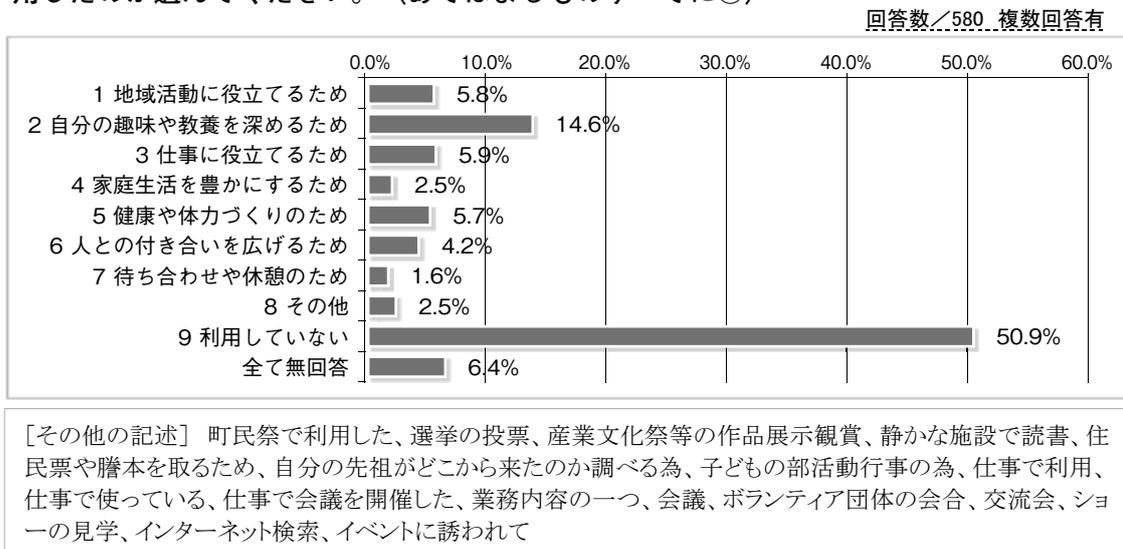
問4-④ 参加しなかった理由は何ですか。(2つまで○)



参加しなかった理由として「1 仕事が忙しかった」が30.5%で最も多く、「2 家庭のことで忙しかった」16.3%とあわせると、46.8%の方が活動にあてる時間がなかったと回答している。「7 これまで参加したことがないから」は18.7%で、「1 仕事が忙しかった」について多く、参加経験がないことも参加しなかった理由だと回答している。

(5) 社会教育施設の利用状況

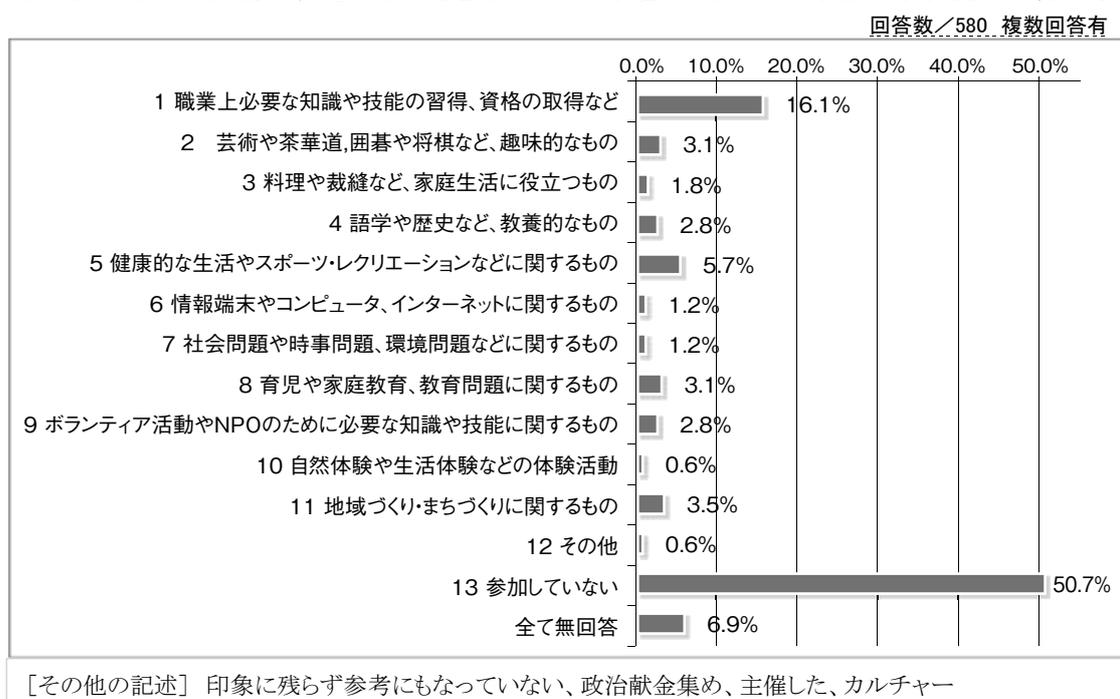
問5 最近（回答日以前の半年間程度）、社会教育施設を利用しましたか。どのような目的で利用したのか選んでください。（あてはまるものすべてに○）



社会教育施設を利用したかの問に、約半数の50.9%が「9 利用していない」と回答している。社会教育施設を利用したと回答した中で最も多い目的は、「2 自分の趣味や教養を深めるため」14.6%である。

(6) 講座やセミナー等への参加状況

問6 最近（回答日以前の半年間程度）、何かの講座やセミナー等に参加しましたか。強く印象に残っている、あるいは非常に参考になったと感じている学習活動について選んでください。（3つまで○）

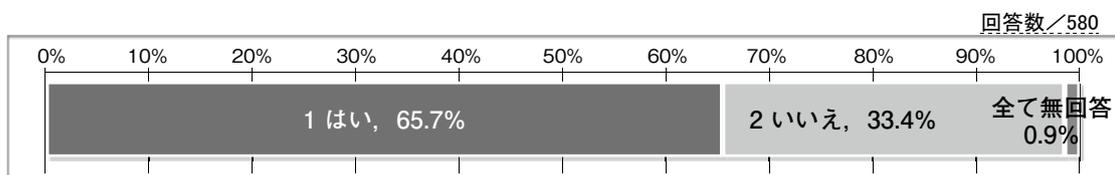


何かの講座かセミナー等に参加したかの問に、約半数の50.7%が「13 参加していない」と回答している。参加したと回答した中で強く印象に残っている、または非常に参考になったと感じている学習活動は、「1 職業上必要な知識や技能の習得、資格の取得など」16.1%である。

3 将来の学びや活用・表現の希望（問7,8,9）

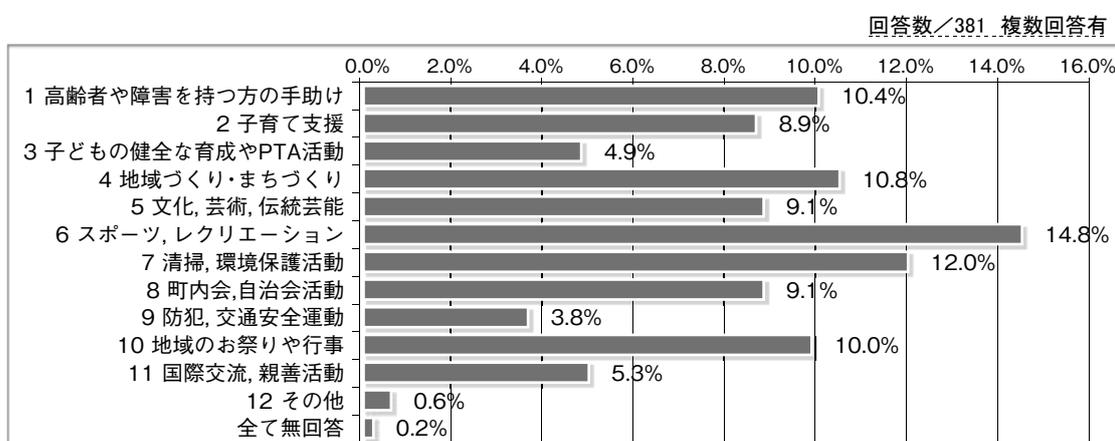
（1）将来シニア世代になったときの、地域活動や社会貢献活動への参加希望

問7-① あなたが高齢者（シニア世代）になったとき、地域活動や社会貢献活動に参加したいと思いませんか。（いずれか1つに○）



（2）参加したいと思う活動内容

問7-② どんな活動に参加したいですか。（あてはまるものすべてに○）



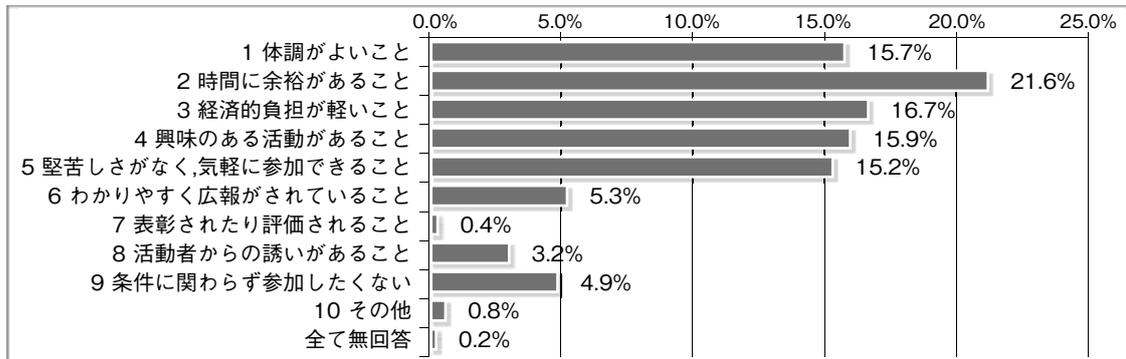
[その他の記述] 動物愛護、食や健康維持について、災害復旧の為にボランティア、健康で自分の生活が楽しく出来るサークル等、興味が持てるもの

高齢者（シニア世代）になったとき、参加したいと思う地域活動や社会貢献活動は、「6 スポーツ、レクリエーション」が最も多く14.8%、ついで「7 清掃、環境保護活動」12.0%である。参加希望が最も少ないのは「9 防犯、交通安全運動」3.8%である。

(3) 参加希望を持たない方が、参加するための条件

問7-③ 参加が難しいと思う場合、参加するための条件は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

回答数/194 複数回答有



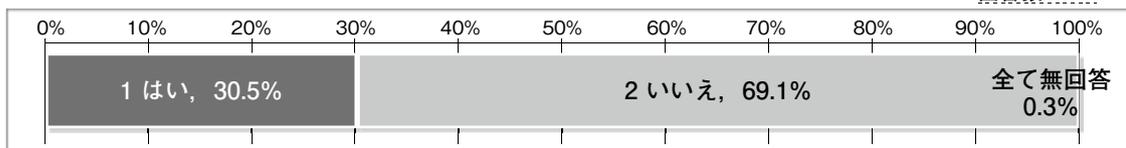
[その他の記述] 病気が進むから、自分らしく自分自身のメンタル向上を目指して、個人で向上して行く物をやって行く(団体ではなく)、津軽特有の保守的考え方を改める事、休んでも大丈夫な事

高齢者（シニア世代）になったとき、地域活動や社会貢献活動に参加したいと思わないと回答した方が、活動に参加するための条件は、「2 時間に余裕があること」が最も多く21.6%、ついで「3 経済的負担が軽いこと」16.7%、「4 興味のある活動があること」15.9%、「1 体調がよいこと」15.7%、「5 堅苦しさがなく、気軽に参加できること」15.2%である。

(4) これまで得た知識の発表や表現に対する希望

問8-① あなたが高齢者（シニア世代）になったとき、それまでの仕事や趣味を通して学んだ知識を、発表したり表現したいと思いませんか。(いずれか1つに○)

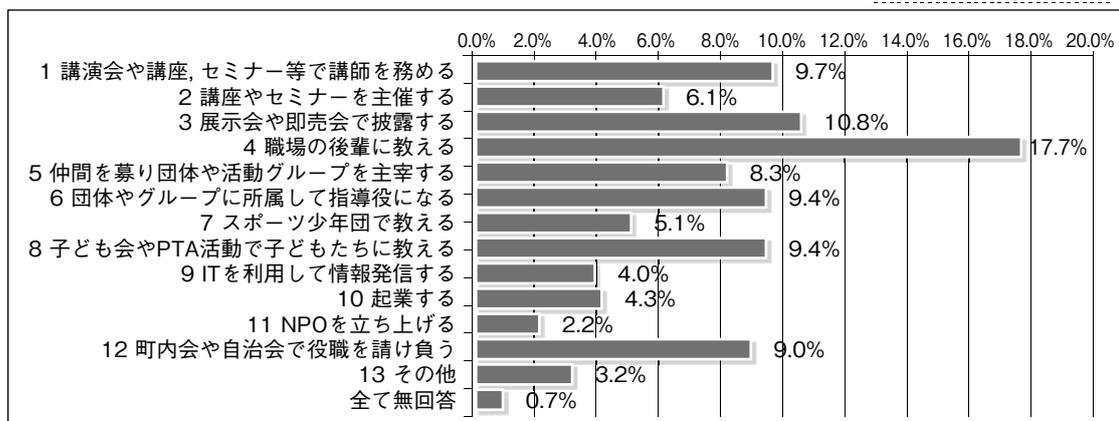
回答数/580



(5) どのような方法で発表や表現をしたいか

問8-② 発表や表現の方法として、どんなことが考えられますか。(2つまで○)

回答数/177 複数回答有



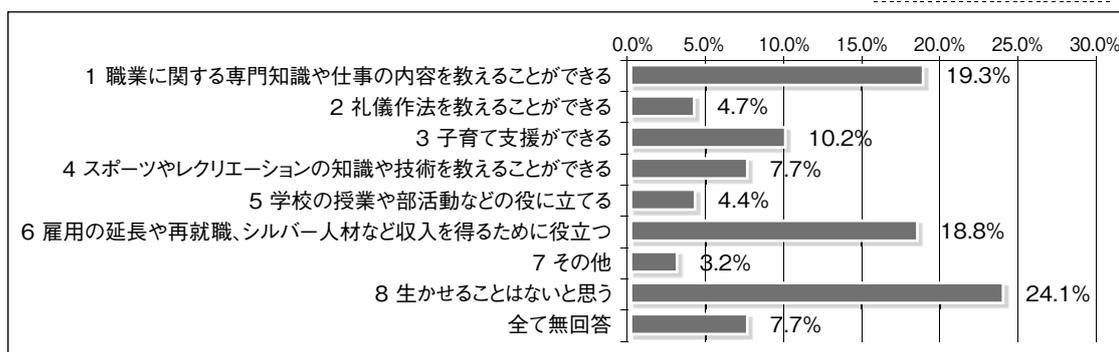
[その他の記述] 役立てる事はあると思う、草の根運動で一对一の支援、声がけしてもらったら考えたい、平日頃気になるが誰に聞いたらわからない話、愚痴が話せる場所、結婚情報をやっていたのでそちらの企画があれば参加も考えます、具体的な案は未だなし、何かの集まりのときを利用して表現する

高齢者（シニア世代）になったとき、仕事や趣味を通して学んだ知識を発表したり表現したいと回答した方が、想定するその方法として最も多いのが「4 職場の後輩に教える」17.7%、ついで「3 展示会や即売会で披露する」10.8%、「1 講演会や講座、セミナー等で講師を務める」9.7%、「6 団体やグループに所属して指導役になる」と「8 子ども会やPTA活動で子どもたちに教える」9.4%である。

(6) これまでの経験は、どんな場面で生きると思うか

問9 あなたが高齢者（シニア世代）になったとき、それまでの仕事や趣味を通して学んだ知識を、仕事以外のどんな場面で生かせると思いますか。(2つまで○)

回答数/580 複数回答有



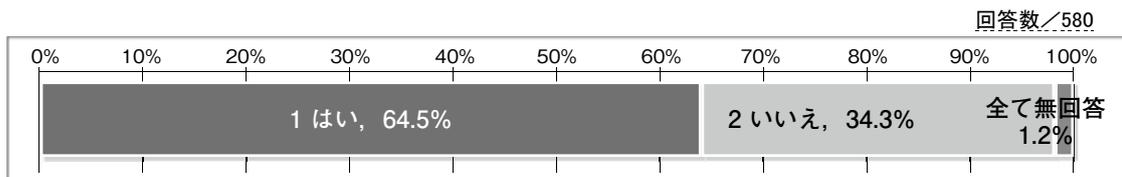
[その他の記述] 特に考えた事は無い、伝統文化を伝える事が出来る、地区の公民館まつり等の行事での展示、地域の方々のふれあいのある生活の中では…、清掃等の町内会活動、人の話を聞いてあげる、書道を教える、職場の後輩に教える、自分の第二の仕事と地域社会に生かせる、自分の生き方や人の心の助けに助言できるようにしたい、作品として制作シバザーなどで販売する、国際交流、講習会での指導、介護の専門なので小グループや個人に役立たせたい、わからない、地域の人材教育に活かせる

高齢者（シニア世代）になったとき、仕事や趣味を通して学んだ知識を仕事以外でいかせる場面として、「1 職業に関する専門知識や仕事の内容を教えることができる」が最も多く19.3%、ついで「6 雇用の延長や再就職、シルバー人材など収入を得るために役立つ」18.8%である。学んだ知識を仕事以外で「8 生かせることはないと思う」は24.1%である。

4 異世代との交流（問10,11）

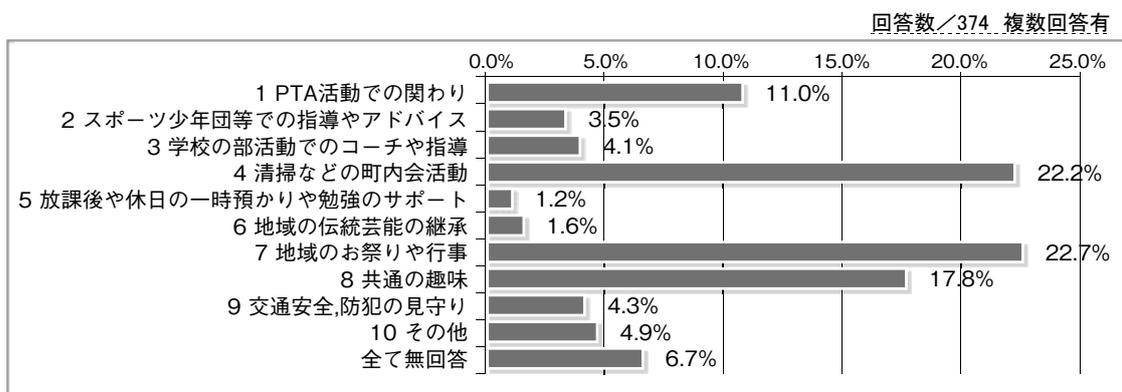
（1）異世代との交流の現状

問10-① あなたが現在住んでいる地域で、あなたと異なる世代の方々と交流する場面はありますか。（いずれか1つに○）



（2）回答者より年下の世代との交流実態

問10-② 子どもたちや若者など、あなたより年下の世代と交流がある場合、それはどんな場面ですか。（いずれか1つに○）

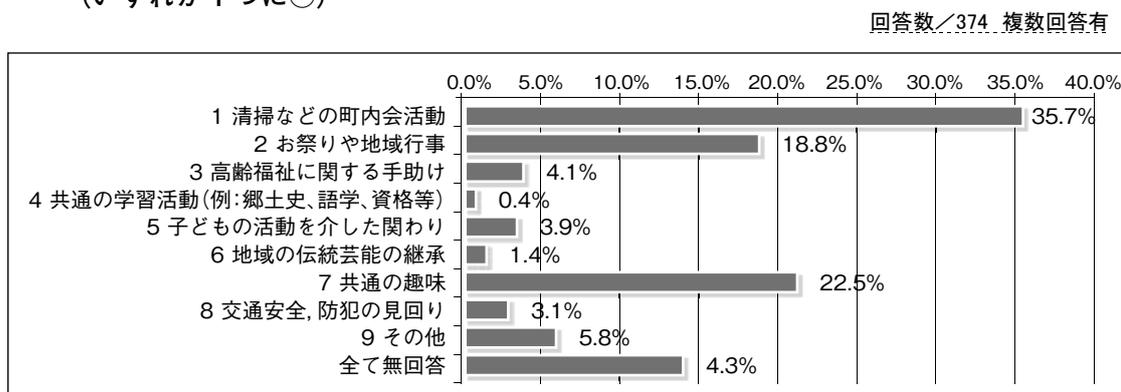


[その他の記述] 町会役員になっている、息子の友達等とBBQ、創価学会、職場での交流、職場、消防団活動、商工会議所青年部、宗教、仕事の中で数人の小中校生が来る、仕事、温泉、飲食店に来る人との会話（子供を含む）、飲み会、フィットネスクラブ、スポーツイベント、2をやりたいのですがつながりがなくなった

年下の世代との交流の場で最も多いのは、「7 地域のお祭りや行事」で22.7%、ついで「4 清掃などの町内会活動」22.2%、「8 共通の趣味」17.8%である。交流の場として少ないのは「5 放課後や休日の一時預かりや勉強のサポート」1.2%、「6 地域の伝統芸能の継承」1.6%である。

(3) 回答者より年上の世代との交流実態

問10-③ 高齢者など、あなたより年上の世代と交流がある場合、それはどんな場面ですか。
(いずれか1つに○)

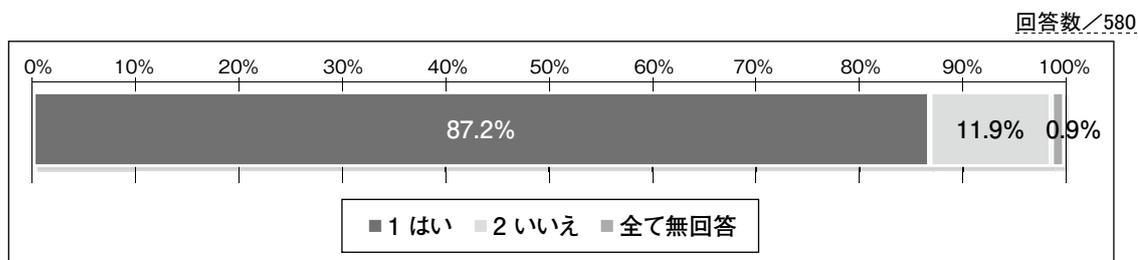


[その他の記述] 町内を通行止めに行なう除雪作業、町会役員になっている、創価学会、生協活動、商工会議所青年部、趣味の活動サークル、仕事を通じて、仕事の中で年上の方が多い、仕事で知りあい、食事など、会社、国際交流、支援、高齢者の友人との会合で話を聞く、近所の除雪の手伝いをしながら、温泉に行った時、ライオンズクラブ活動の中で、フィットネス、スポーツジム、スポーツイベント

年上の世代との交流の場で最も多いのは、「1 清掃などの町内会活動」で35.7%、ついで「7 共通の趣味」22.5%、「2 お祭りや地域行事」18.8%である。交流の場として少ないのは「4 共通の学習活動(例:郷土史、語学、資格等)」0.4%、「6 地域の伝統芸能の継承」1.4%である。

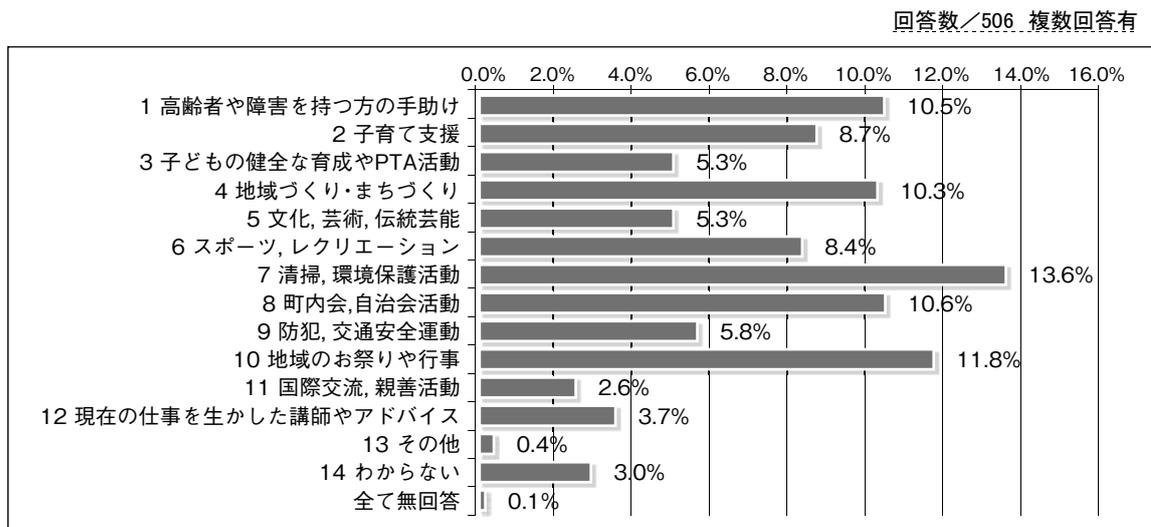
(4) 異世代との交流の必要性

問11-① あなたは高齢者(シニア世代)になったとき、あなたと異なる世代の方々との交流や協働は必要だと思いませんか。(いずれか1つに○)



(5) 交流希望の内容

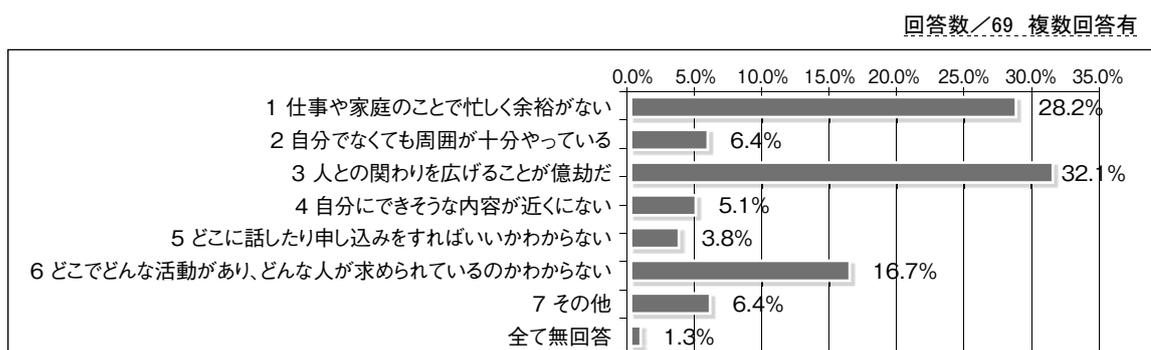
問11-② どんな内容の交流や協働ができますか。(あてはまるものすべてに○)



[その他の記述] 1~12 はよくある活動項目でおもしろさがない、声がかかれば何でも OK、共通の趣味を通して、何らかの形でなるべく外に出て楽しみたい、全部そうだと OK だと思いますが、選択肢が少ない、高齢者や子どもの話し相手になり心のケアになるように手助けしたい

高齢者（シニア世代）になったとき、異なる世代との交流や協働の内容として最も多いのは、「7 清掃、環境保護活動」で13.6%、ついで「10 地域のお祭りや行事」11.8%、「8 町内会、自治会活動」10.6%、「1 高齢者や障害を持つ方の手助け」10.5%、「4 地域づくり・まちづくり」10.3%である。交流や協働の内容として最も少ないのは「11 国際交流、親善活動」2.6%である。

問11-③ 必要ないと思うのはなぜですか。(いずれか1つに○)



[その他の記述] デイサービスにお世話になった事があるため、必要ないと思わないが今の生活の状況を考えて余裕が無い、無理に交流する必要なし、自然に任せる

高齢者（シニア世代）になったとき、異なる世代との交流や協働が必要ないと思う理由として最も多いのは、「3 人との関わりを広げることが億劫だ」で32.1%、ついで「1 仕事や家庭のことで忙しく余裕がない」28.2%である。必要ないと思う理由で最も少ないのは「5 どこに話したり申し込みをすればいいかわからない」3.8%である。

5 行政への提案 (問12)

・行政の取組への希望 (自由記述)

問12 高齢者（シニア世代）が元気に生き生きと暮らせる社会にするためには、行政機関はどのような取組をすべきだと思いますか。

【男性】 45歳～49歳

公共交通機関の整備、医師不足の解消、短命県返上の為の健康セミナーの開催
情報発信、声かけ(個別に)
シニア世代が必要とされる取組を行政機関にお願いしたい。
各町内に気軽に集合できる場所を設けて、自由に使用できる仕組みを作ってはどうか。
活動の場の提供や情報提供。
希望者に限られるが、職能、活動経験、更に最低限の義務講習のようなものを修了した者を公開し、協力、支援が必要な団体から依頼が出来るような制度を構築してみたいか？(日本のボランティアの間違った認識である「1円もお金を支払わない」という事ではなく、能力、資格、活動内容に応じてそれなりの報酬、謝礼がある事が条件となるとは思います、無償もまたありかとも思います。)
健康な高齢者を雇用する企業の紹介。
高齢者なんかより子どもにかけるべき。育児に対しての手当が少なすぎ。行政機関は高齢者には必要最低限の事をして、残りの財源は未来ある子どもにあてるべき。
高齢者になると仕事もなくなり、家族からも嫌われ、何も楽しみがなくなります。そんな高齢者に仕事を与えてはどうでしょう。休耕地を行政で借り、高齢者を集め耕作してもらおう。少しの利益でもあれば楽しいでしょう。幼児の預かり等も良いと思います。 ※高齢者の働く場所、役割を与える。
高齢者の就業の場をもっと増やせる様にしてほしい。
高齢者の方々と接する機会として、一番身近なものとして、居住する地区の町内会や学校を中心とした活動ではないかと考えますが、それらの活動などが困難であったり、障害なく実施できるような行政からの支援が大切だと思います。
今まで色々な交流の場に参加しましたが昔から伝わる祭りの場が一番。老人と若者の触れ合う事を感じました。例えば75才の老人の隣で20才そこそこの女の子と一緒に酒を飲みながらキャクキャクしている姿は、そうざらに見られるものではなく、そうしているうちに老人の生気が見る見る力強くなる光景には圧倒されるばかり。行政は老人と若い女の子、老人と若い男子が出会える場所を沢山提供して頂きたい。人間老いても華がなければ楽しくないと思います。
佐賀の樋渡さんの所の様に、行政機関に勢いを感じられる仕掛けを徹底的に行い、民間も巻き込んでいく工夫が必要だと思います。
仕事出来る環境をつくる事が何より優先するべき。
仕事もせず、遊んでいる職員をカットし、その分の税金をシニア世代への医療費に持っていきべきだと思います。税金は「人の血」です。
私の町内会にも一人暮らしの高齢者の方がいますが、突然の災害時等の対応が心配です。三沢市ではご近所サポーターなる取組もしていますが、まだまだ不足ではないかと思えます。
時間とお金に余裕のある生活が出来る事が必要。そのための援助等。
次世代の方にシニア世代がこの国を支えてきた事、尊敬できるものであるという事を教育することが必要ではないか。
若い人がシニアに望む事を把握し、若い人とシニアの共有する場作りを行政が作り、人作りに貢献する事に取り組んで欲しいと思います。
生きがいを感じられるような、地域、町づくりをしていけばいいと思います。
税金を安く。医療機関の充実と医療費を安く。
税金を安くする!! 道を広くする! シニア世代の話を聞ける人を多くする事!! 地域からの話を早めに反映して下さい!
税金を無駄にせず有効に利用する。(大きな箱物等の高額なものは住民投票するべきだと思う。)
税金等の軽減。除雪、排雪の環境整備。
年金を遅くしない。減らさない。
年金支給額増 国保料引下げ。

【男性】 50歳～54歳

“責任を持って”という意識をもち、取り組む必要があると思う。

年金額を下げない。食料品、日用品の消費税を下げる(生活に直接関係ない物は上げて良い)。外に出て体を動かしたくなる何か・、ボケ防止。公園、校庭等の清掃(小さい子が遊びまわっても怪我しないように)
アンケートの選択内容が限定されており、これでは参加出来る人が限られてしまう傾向になるのでは？ まずは堅苦しさがなく気軽に参加出来る場所を、場面を創り出す事が大切では？
お金がなければ何もできないこの世の中を少しずつでも変えていってほしい。
まずは小さな集会で行動できる環境づくり(場所や経費など)。
何をやるにしても税金の無駄遣いになりがちだと思うので、余計な事はしないで慎重に計画、実行して欲しいです。
一人暮らしの老人に対し特に、各機関が連携し安否確認の強化や孤独死の防止に努めていただきたい。また、地区の生活館など、冬期間に毎週、シニアが集える様な催しを行なったらいいかなものではないでしょうか。
何をやるにも、わかりやすく。
居住地の公的集会場所の管理的仕事の補助(若い人が主体となっている)的な仕事。例えば児童館のような所にシニア世代の人達が加わっていてもいいのではないかと思います。
金銭面での支援。
現在参加する地域活動には、自分が情報を得て積極的に取り組んだものではなく、声が掛かって向かったものです。もし声が掛かっていなければ参加し続ける事は無かったと考えています。やはり一方通行的な情報より、対面(人との)により誘われると参加してみようかという気持ちが高くなりますので、難しいとは思いますが、声掛けをする人材を育てることに取り組んで欲しいと思います。
行政はあまりタッチするべきでないと思う。シニアは子どもではありません。必要なのは心身がおとろえた時からです。
行政機関は現場を見て歩くべきだと思います。現場がわからないと、何をすべきかがわからないと思うから。
高齢者がボランティア活動に簡単に参加出来るシステムづくりや、その活動を続けていくためのモチベーションの引き上げ、積極的に参加してもらうことなど意識改革的な取組をしてはどうですか。
高齢者の社会参加活動をするのであれば、高齢者は参加したくてもそこまで行く手段がなかったり、参加費がかかると諦める事が多いと思います。送迎バスや参加無料であればいいのではないかと思います。
市民センター及び公民館のイベントを多くするか、いつでも行ける話し相手がいる場所。軽スポーツ、いつでも一人で行ってもラージボールが出来ると良い(クラブに入会しなくても気軽に出来ると良い)。
社会的弱者に対する配慮。年金の減額や消費税の増税等、高齢者が安心して生き生き暮らせる訳がないと思う。その辺をよく考えてほしい。
若い世代との交流が持てる様な機会の作為。
手厚い保障。
趣味の講座やイベントを増やす。
収入が無ければ(ゆとりの有る生活)。年金だけでは元気に生きていけないと思う。
色々なイベント情報を伝える。
税金、医療費。
早朝からの開館。
町内会での活動を参加しやすいようにする。レクリエーション、清掃活動等が参加しやすいのでは。参加の呼びかけをする等。
町内会の活動、そのものに頼り過ぎない事が重要と思う。
冬でも活動できる施設の利用(料金のあまりかからないこと)。歩いて行けるか少料金のバス。車がないと自由に移動できない。
冬の運動不足解消に体育館での球技等、もっと積極的に声をかけて勧誘する。皆どんな事をやっているか知らないし、誘われればとりあえず行ってみようかなとなるのでは。
年金が保障できない。あるいは受給年齢がどんどん上がっていくような時代になるので生活していくことに不安は尽きません。

【男性】55歳～59歳

スポーツ施設の拡大～ゲートボール、グランドゴルフ等。学校(小・中・高)での講師等～体験談など。
除雪の置き雪を解決してスポーツ等に時間を使えるように。市民センター等、スポーツ施設の増設をして、もっと自由に使用できるようにする。
役職、公務員意識を無くする事。民間企業と連携する気持ちを高めて、住民の意見を聴く気持ちを育む。自由な発想を受け入れる感性を持つ。情報、企画を広く知らしめる。特定の意見のみを取上げない組織作りを行なう。
NPO活動等で必要とされている人材の一般への紹介と、シニア世代(活動意欲のある)とを結ぶ事。箱物ではなく人々のネットワーク作りを推進すべきである。金ではなく知恵をしぼること。
NPO法人で仕事をしているが、NPO法人が別の会社を運営しており、何がNPO? 法人なのか不明瞭な所はありますが、高齢の為転職は難しいが、今後転職を考えています。
いつまでも生き生きと生活出来ない人が多くならないようにするのに悩みを聞いてくれる地域である団体が必要で、何に困っているのかを相談出来る行政があれば、お年寄りの方でも自由に話を出来る様に!!
いろんな所に話し合いをする場所があって、その人その人の長所が生かす事が出来る様に!

お金のかからないアドバイスや情報公開。
グループホーム、介護老人保健施設、介護老人福祉施設の充実。
公共機関の利用が多くなる時間ができるので、図書館や公民館などにシニアのコミュニティの場を充実させてもらいたい。
このアンケートが本物になるよう、一人一人が今元気でいられる環境はなにか、この紙を無駄にしないで下さい。
シニアでも就職して働く事ができる様にしてもらいたいし、そういう環境を作ってもらいたい。(同様回答他1件)
シニア世代になる前に必要なセミナー等を開催し、意識付けの活動を行なうべきだと思う。仮に実施しているのであればPR不足だと思う。
シニア世代の定義は70歳以上にすべきであり、70歳未満の人々は現役で働けるよう日常から健康管理をしっかりやる必要がある(特に青森県は短命の為)。
ハローワークのような斡旋、紹介の取組。(同様回答他2件)
過去の経験を生かすスポーツや伝統芸能を子どもに教える。
会社、組織を離れる為、横の繋がりが薄れていく。そのため情報交換が気軽に出来る場所、組織、システムを早期に立ち上げ具体的なニーズに応じてもらいたい。
各個人が孤独にならず、社会と繋がりが有る様に地域全体で取り組む事と、積極的に情報を出す事。
確実な年金受給。年金だけで安心して暮らせる社会にして欲しい!!
環境の提供として支援。
気軽に集える場所(屋内、屋外)がある事。
健康寿命を伸ばす種々の施策、社会参加出来るような場の設定、働きかけ、ソフト、ハード両面の支援。
現場を見て、現場の声を聞いていただきたい。
公共交通料金の無料化。
行政が直接ではなく、企業やNPO等に支援を行い、そこがシニアを対象とした活動のプログラムを作成し社会参加を様々提示して呼びかけて欲しい。
行政機関の取組など考えていません!!
高齢者雇用、健康管理。
今はまだ仕事が忙しく地域活動や社会貢献活動を考える余裕がない。また積極的に探す事もしていない。シニア世代になって、時間的な余裕が持てた時に何処でどんな事が出来るか、容易に探す事が出来る様な状況であって欲しい。
市の広報とかで、もっとシニア世代の集る機会のイベントとかを増やして欲しいと思います。
社教施設の充実(老朽化、汚れた施設には行きたいと思わない)。ソフト面の充実(どんな事を企画しているのか、よくわからないことが多い)。
十分な告知(回覧板はダメ)
除排雪をしっかり行なえば時間が沢山出来るため、出かける事が出来ると思います。
小さな単位での活動の拠点作りが必要である。
少ないお金で一日を自由に過ごせるような施設。
世の中はすべてお金が必要なのに、高齢者の負担を増やすのはどうなのかと思います。
短期、中期の取組をアピールし援助し長期へと計画していく。心身の健康作り、住み易い生活、町作り、役割の持てる暮らし、文化を語れる。技能を伝え評価する。経済が活性化。世界のシニア世代と交流し、支援、明日を語る。
地域及び町会の声を聞ける場所を設置して欲しい。公共施設は遠いと思う。車がないと行けない。行政機関の窓口を地域の人々に代行、設けるのも方法ではないか。
天候、気候が良い時期に健康の為にウォーキング、散歩等が良いと思います。
当事者の意向を最大限取り入れる。役所の都合で物事を進めない。
年金だけで余裕を持って生活できる高齢者のための充実した福祉を行なう。
不安を除くノウハウを知らせる情報を伝える。
様々な面で行政サービスが良すぎる。シニア世代を必要としていない。行政サービスを要求しすぎるし、それに答え過ぎている(自分で行動しないで人を頼っている)。
定期健康診断の推進(PRや経済的援助)、シニア世代のレクリエーションの推進(ゲートボール、卓球)、社交ダンスのレッスン等交流の場を増やす。

【女性】45歳～49歳

目先の事として高齢者のサポートは大切ですが、働き盛世代(40代～50代)をサポートする事も大切だと思います。生きている限りみな老いてゆきますが、高齢者になっても介護を必要としない高齢者を増やす為に働き盛世代に先手を打つ為に仕事帰りor休日に無料又は低料金で健康維持、増進できるようにスポーツジム利用の補助金など支給していただければ利用者が増えると思います。
高齢者になった時に生き生き暮らす為に、今一生懸命働いて子どもたちもきちんと独立させようと思っています。若い人達が生き生きと余裕のある生活ができれば、自ずと高齢者も暮らしやすくなると思います。

シニア世代のみのイベントや集まりに分けない方がいいと思います。普通の集まりにシニア世代に配慮した参加枠を設けると、見る側もとてもいい気持ちになります。夏に浅虫のねぶたに、近くのグループホームのおばあちゃんたちが車イスでバケツ参加していて祭りの主役になりました。すごく盛り上がりました。
家にこもらない様にレクリエーションや清掃活動など、外に出るよう積極的に声をかけ取り組む。また定期的に子ども(小学校や幼稚園、保育園)とのふれ合いの実施。放課後(学童保育)などにも高齢者からボランティアを募るなど。
意見を書いても聴く耳を持たない役人の人ばかりなので、言っても無駄のような気がします。あなた方は市民を見下すような視線で扱うので、もう少し腰を低い体勢で市民と同じ目線で物事を考えたらどうですか？
各行政において、その時々無駄なお金の使い方をやめる。見極める。
アパート、転勤族と、関係なく、地域に居る時は、家族ならその土地になじんでほしいと思うが、会っても挨拶もしないから、心を開く訳がないですね。シニアだけのイベント、回覧、何か習い事を通して、知り合いが出来たら楽しいのでは。身近に情報があればいいと思います。
医療費を少なく、年金を上げる事。(同様回答他1件)
地域、若年、高齢交流が必須。
高齢者になってから費用負担のかからない社会にして欲しい(福祉施設に入るのに多額な費用がかからなくてもいいように特に思う)。
生活に負担がかからないような援助・雪対策・医療費対策・年金対策など。
公共交通機関の充実。歩道確保。学校と町内の連携。
高齢者の医療費の無料化、定年の延長、シルバー人材の多様化
町内の中で高齢者が多くなってきていて、一人暮らしの方々も増えているので(自分の母も含む)引きこもりを少しでもなくせるようなサークル活動を作りたいと思っています。私もどうしたらいいのかかわからないので、良いアイデアをお願いします。
子育て支援をすれば良いと思う。今の時代は核家族化が進んでいるので、若い人達はいろいろな問題を抱えている事が多いと思います。相談できる人、または子どもたちが心豊かになるお年寄りサポートが必要かと思います。
私が住んでいる地域は昔からの方もいますが、新しく家を建てた30代~40代の世帯も多く、ほとんど近所づきあいというものはありません。私も含め地域の活動に興味がある人はほとんどいない印象を受けます。また地域の活動と言ってもどの様な物があるのか、行なわれているかもわかりません。まずはいろいろな情報を伝え、参加しやすい声がけなどが必要かと思います。
様々な世代が交流できるようにして頂けたらいいなあと思います。
参加しやすい環境作り。
趣味やサークル活動を発信して、活動内容を知ってもらえる企画をする事(素敵な手作りする方が沢山いると思います)。商品開発や地場産物を全国に発信してシニア世代が仕事を生き生きと出来る様にする。子どもたちやペットと触れ合える機会があるといいと思います。
仕事が無くなってからの生活の保障、もしくはシニア世代になってからも仕事出来るようにする。ボランティア(無報酬)での活動ばかりでは根本的な生活が成り立たないと思う。
高齢者は自宅の近くで活動、行事が一番参加しやすいと思います(町内会行事や小学校行事、防犯や安全運動など)。子ども達と触れ合うのが楽しみだと思うので、そういう活動を多く計画されればよいのではないのでしょうか。
高齢者が気軽に参加出来る、又はその場所へ行く交通手段を取り組んで欲しいです。また、子どもと接する機会を多く出来たらと思います。
今現在は子育てに支援を増やして欲しいです。そのことが自分がシニアになった時に、地域の子どもたちが増えて活気のある街が作れるのではないのでしょうか。行政は公共機関の交通の確保など取り組んで欲しいです。
年金等で暮らしていく為に必要な最低限の保障。
年金は少ししかもらえないと思うので、お金のかからないイベント、講座等をやって欲しい。施設までの交通機関を充実させて欲しい。
私の親は(60代後半~70代前半)は二人暮らしで年金生活者です。年金も少ないので母が生活費を切り詰めながら細々と生活しております。年金暮らしの世帯は、夏場はエアコン代(電気代)、冬場は灯油代を県で負担して下さるとか、していただくだけでもだいぶ助かると思います。
どの様な活動に、どの様な人(資格)が必要なか明確に広く周知する。
自宅で引きこもりがちの高齢者が、自由に集いの出来る場所があり、いつでもまた行きたいと思える様に。行った時には"今日も元気に過ごす事が出来ました"というスタンプカードの様な特典を付けて元気印をもらう。何かしらの楽しみを作る事を望む。
シニア世代になると当然収入源が減ってくるので、出費しなくても参加出来る活動の提案が必要だと思う。
健康でなければ何も出来ないと思うので、検診を充実してはどうか。日曜、祝日も出来る、検診に来た人にお弁当を出しているが、そのお金があったら無料にする。PETがん検診など(質問の内容と違ったかもしれませんが)。
若い世代の雇用状況が安定し、子育てしやすい環境作りをして欲しい。誰もが幸せになれる様、シニア世代だけでなく若い世代が収入も増える様に取り組んで欲しいです。消費税をきちんと全世代が支払うので、福祉等に使って欲しい。
子どもたちとの交流。高齢者(シニア世代)のコミュニケーションがとれる場所。

税金を無駄に使わず、適切な事に使う事(医療、生活、各施設を使いやすくする等)。そのためには…無駄なチラシは配布しない。 unnecessaryな工事はしない。生活保護、準要保護等本当に必要なかどうかの見極めが大切だと思います。保護手当をもらって家を建てたり、子どもに多数の習い事をさせたり、旅行に出かけたり、室内犬を飼っていたり、各種ゲーム機、携帯等目に余る物を持っている事が多いようです。しっかりと本人の申告だけでなく、調査をすべきだと思います。魅力的な青森県になるよう各施設を充実させて下さい。
①医療費を安くする。②お年寄を色々な所で活用する。例えば学校に来てもらって、子どもたちへ昔の知恵を教える講座を開くとか・・・の企画。
若者との交流の場を、もっと多く設けるべきである。
行政機関にどうしてほしいと言うより、自分がシニア世代になった時は、経済的にも大変になると思うので、生活していくのにやっとならざるを得ないような生涯学習等に参加する事など考えられないと思います。
誰でも参加しやすいイベントをして、顔見知りを作って人の為になる様な事を、たまに自分の体力に合わせて月に1、2回やれると良いと思う。
地域では自治会が積極的に行事を作り、子どもたちと交流する場を設けている(予算の関係で大きくは出来ない)。村、県が中心となってそのような行事を計画できないか。
認知症の早期発見が出来る取組。いつまでも自宅で生活できる様に施設サービスにばかり頼るのではなく、地域で支える取組が必要だと思います。
健康である限り、働ける職場の確立。
誰もが安全に安心して生き生きと暮らせる地域コミュニティを築く事。また、地域の色々な世代の人々が共に支え合う町づくりの取組(人のつながりの場を提供等)をすべきだと思います。
情報を発信したい人と、情報を求めている人(あるいは援助を求めている人と、援助しても良いという人)、双方の橋渡し、また、まずは何が必要とされ何が可能なか、意見を述べ合う事の出来る場を設定することではないでしょうか。それがネット上のものであれば、私たち以降の世代にとっては、より身近なものとなるかも知れません。
私は障害者なので老人と同じです。病気が進む方向なので希望はありません。
自分の気持ち次第で外に出られると思うけど、人が人を思いやり、言葉を掛け合える様な環境にあるなら人に会うことが楽しくなると思うし、その事によって何かをやり始めるだろうし、行政機関もどんどん利用する様になると思います。
社会保障の充実、年金で生活できるくらいの額の給付、若者の正規雇用制度

【女性】50歳～54歳

ボランティアは無償といいますが交通費と活動保険はバックアップして欲しいです。街中に限らず歩きやすい歩道が整備される事を希望します。公園を作ってほしい。見守りのある高齢者住宅が欲しい。
雇用を増やす(高齢者に合った形態のもの)。ボランティア等の募集(どんどんして欲しい)。学習意欲のある人には、学生に混じって高校や大学の講義を受けられるようにする(費用負担はなるべく少なく)。
高齢者が自分で進んで交流しなくてはいけないと思う。高齢者の知識と経験を活かせる場を、社会や行政が作ってほしいと思う。高齢者だからと言って、すべて手をかけるのはどうかと思う。死ぬまで現役でいるのには、自分の事は自分ですることだと思う。
自立支援を行なう事ではないでしょうか。地域でのコミュニケーションを高めていく。
冬でも高齢者が楽しく安全に外出できるような道路、交通網の整備。簡単に扱えるインターネット端末の普及。ただしネット犯罪への対策が不可欠。
認知症「予防」への取組。老人用スポーツ教室等拡充。
明るい街づくり(商店に活気があったり、お祭りがあったり)。子どもが外で元気に遊んでいられる街づくり。旅行などの企画を提供する。最近はお母さんが仕事をしすぎて、子どもと公園や町内で遊んでいられるのが見られない。シニアの方は若いお母さんと子どもが遊んでたりしているのを見られるのが幸せではないでしょうか。私も若い母の時、子どもを連れていってよくシニアの方々に話しかけられ、いろいろとアドバイスを頂いたりして交流できたので。
50代になってから感じる事は何歳からが高齢者となるのかという事です。実際80才になる母は「自分は年寄りではない」と言います。老人クラブやデイサービス等に行く事を嫌がっています。できれば何才という枠をはずして地域全体で参加出来る形が望ましいと思います。公民館、児童館等もっと必要だと思いますし、もっと自由に出入りできる場であってほしいと思います。
あまりにも高齢者扱いしない事。やれることもヘルパーにやってもらおうと、ますます出来なくなるしワガママ老人を増やし、ますます金がかかることになりかねない。やれる事は自分で頑張りましょう!!と声かけした方が良いと思います。
イベントや企画など詳しい情報がほしいと思います。
いろんな団体等に職員を派遣し、学ばせる事が良いと思う。県民の意見等を広く聞く。
お金がかからない事が一番です。
シニア世代でも常にスキルアップできる様、シニア対象の勉強の場の提供。
シニア世代と言いますが、私個人的には子供達のジュニア世代をもっと中心的に考えて欲しい。年をとるにつれて、子どもの笑顔や活発な行動は気持ちの良いものである。シニアとジュニアの交流の場を是非増やして欲しいです。大人が思うほど子どもたちは、子どもじゃないし大人の事をよく観察しています。大人も子どもも元気な青森県を目指して欲しいです。

シニア世代と子どもたちのふれあい(交流)の場を設ける。
シニア世代になっても必要とされる事はうれしいこと。行政にはうまくコーディネートしていただければ良いと思います。
シニア世代の人達にはシニア同士、お茶を飲む、温泉に行く等自分たちの時間を楽しむ、楽しみ方を知っている人が多いと思う。ただ、そうでない人のためには、行政が何らかの手を差し出す事になると思う。シニアにとってこれからの生活が不安だと思うので、未来に向け安心して生活できる内容のイベントは嬉しい。食べる、遊ぶは十分やっている。
ずっと働いているので近隣の家との交流が無いので手段がわかりません。できる限り社会の一員として何かして仲間が出来るならうれしいと思います。何か出来るか心配ですし、そういう声掛けをして頂けたら内気な私でも役に立てる(張り合い)と元気に暮らせるのでは・・・。
チャンス(行事、募集等)を作って下さい。家に閉じこもる事になりたくないと思っています。
なんでもかんでも切り捨ててきた行政に望む事は何も無い。
プレ・シニア世代が介護で大変だと思うので、それらの負担を軽減する取組。
もう少し自由な発想で、外に出て来る人だけに焦点をあてるのではなく、出て来られない人の家族にアドバイスや明るく生活していける、そして出て来られない高齢者が家の中でも楽しく生活していけるような働きかけが、いろんな形であればいいなと思います。必ずしも家の中に居る人だけに働きかけが出来なくても、その家族に働きかけた事によって、少しずつ家の外も生き生き暮らせる社会になるのではと、いつも思っています。
リタイヤした人にも元気な人は多数いらっしゃいます。再就職の道を広げる事やシニアでない(経験他)出来ない事など、最根底より掘り下げて見直していくべきかと。ますますこれから高齢社会に突入していくのですし、気軽に若い世代との交流も出来るような企画も考えて頂きたいです。
一人であるのが嫌いな人好きな人! 集団行動が嫌いな人好きな人! 個人的な事なのに、このアンケートの意味がわからない! だからなに? シニア世代がどうのより“新町”“アウガ”を何とかして欲しい! 青森は県庁所在地なのに何今の現状! 今がちゃんと出来てないのに未来がどうのこのうのなんておかしくないか? 元気に生き生き暮らす前に終わっている!! 個人的には青森を離れようと計画中だ!!
一人暮らしの高齢者を孤独死させないように、何らかの形で連絡取れるようなシステムがあればいいと思います。
何かをやりたいという意識を持った人達を、受け入れる場の環境の整備を整えておけばいいと思います。
家の中でとじこもらないように、シニアでもできる簡単な仕事をやらせる。
家の中に引きこもりがちなのが多いと思うので、何か外に出る機会が増えるような町内等で無料の芸能等でとりあえず外に出る機会を与え、その時異なる世代と交流したり、いろいろな活動に参加出来るようにして欲しい。
各施設で行なっているサークルや講座の内容がホームページにアップされ、HPから参加申込できたり、HPがもっと充実していれば良い。また高齢者対象のIT講習会を増やす事が必要と考える。
学社融合と言いますか、学校が休みで部活動がない時等を利用して、学校の施設を活用する事が出来る様な橋渡し(日程の調整や宣伝等)はどうか。学校の職員には少々負担がかかるかもしれませんが、技術室、家庭科室、体育館等をシニア世代が利用する機会があれば・・・(子どもに教える場でもいいし、シニアだけでもいいし・・・)
楽しめる行事を色々考えて欲しいです。
気軽に参加出来る環境を作って欲しい。(同様回答他1件)
義務教育世代から、ボランティア活動はみんながするものだというふうに意識改革し、体験活動を重ねていくことができれば、退職後に自分の生きがいが出てくるのではないかと思います。
近くに気軽に集れる施設があれば良いと思う。歩いて行ける様な。道路も整備して欲しい。
自分がシニアになった時は色々な行事、活動に積極的に参加して社会とつながってみたいと思います。
玄関に鍵がかかった施設の中で食事と排泄だけの単調な生活ではなく、家族が連れ出さなくても自由に散策したり、土に触れる機会を増やす事が出来るような取組をして欲しい。
雇用の延長、再就職が出来るような制度の仕組みを確かなものにして欲しいです。
交通網がしっかりする事で出かけやすくなる(バスが日に5本しかない等では、出かける気持ちが失せる)。循環バスをもっと多方面に。今は自家用車を利用していますが、後々…、雪かきのストレスを無くする。
弘前だより等でいろいろな活動が記入され参加する事があるのです。全然知らない人たちで町の中をバスで巡ったり、自然に触れたり、でも1月の楽しみで毎月あったら2ヶ月に1回でも続けてあったら知り合いが出来そうです。
行政機関に従ずる人々の所得を、シニア世代の雇用を生み出す為に分配してはどうか。
高齢になると引き篋もりがちなので、せつかくある公民館等を随時開放して高齢者の交流の場にするのもいいのでは。
高齢者が夫婦健在で暮らせているうちはいいですが、一人暮らしになった時は、絶対的に行政の行き届いた目と心配りが必要と思う。
高齢者になっても一人一人が生き生きと、そして大事な事は尊重されることだと思いが、どうしても自分の親を見てもそれが不足していると感じる。若い人達との交流は無理に気を使われると本当の心の交流が生じない。気を使わず交流し、本当に心から笑える場、楽しい場はないものではないでしょうか。それはごく一部に当てはまる企画にしかならないと思います。
高齢者の集う場所(デイサービス、各施設等)に出向いて生の声に耳を傾け、本人の立場になって聞いて欲しい。沢山情報が得られヒントが多数発見できます。
高齢者への支援や交流の場所、救済をきちんとすべき。

高齢者や障害を持つ家族があるので、家族だけの負担が増えないよう施設等を増やして欲しい。
今までの広報だけでは私たち世代には全然広まっていません。ランチをしたりおしゃべりしたり楽しい自分たちだけの集まりになっています。もっと何をやっているのか、募集しているのか、教えて欲しいと思います。見る人が増えれば参加する人も増えると思います。
今一人暮らしが増えていて、人との対話を望んでいます。どこかに行ったら誰か話しかけてくれる。誰かが待っていてくれる所。
仕事を退職して高齢者になってから、急に地域の中で活動するのは難しいと思う。子育てがある程度一段落して多少時間が出来る始める40代後半くらいからの時期に休日に参加出来るような講座等があればいいと思う。少しずつ地域の施設に足を運ぶ機会があれば、退職後も気軽に参加出来るようになるかもしれない。
私にはわかりませんが、良い意見が有る人もいると思うので意見箱的な物でも設ければ？
私の住んでいる所は家が10数軒しかなく、若い人達は県外で働いており、高齢化が進んでほとんどの家が年寄りだけで、出かけたくても交通の便が悪く、出かける機会が少なくなり、近所の人意外と交流する事がほとんどありません。年だからと家にこもり、出かけたくなる様な取組があればいいと思います。
自分に出来る仕事(作業)、奉仕活動を町内活動に活かしたり見本となる活動をするのはどうでしょうか？年金生活の安泰だけがすべてではなく、生きがい、張り合い、それが社会との結びつきや交流となりえるような!! 行政にはリーダーや基盤作りの発起人役と相談役がよいように思えます。
自分自身が今現在仕事が多忙であり、地域の方々と交流する時間がありません。普段の交流ができていない状況から、いざ退職した時に地域の方々と交流したい気持ちがあっても、どのように参加していいのか、どのように参加するのかわかりません。その地域に住んでいても普段の生活が地域と密着していないシニア世代の方を地域と結びつけていただきたいと思います。
自立した若者が増える事、若い世代が税金を払ってちゃんと暮らせなければ意味がない。年寄も一人一人自身が意識を変え、学んでいくべき。
社会活動に消極的な人いかに興味を持たせるか、初めの一歩をどうアシストするかが大事。一人暮らしの方などは話し相手を探しているように思います。気軽に集って楽しめる場と、公民館等での無料講座も増やすと良いのでは？
社会教育施設等を利用も可ですが、団地等で生活している高齢者は集会所があるため、そこで何かしらの交流や活動をしたいと思っている。そのための講師の要請や名簿を町会長等の自治会まで情報公開して頂けたらいいと思う。小規模化、分散化が求められていると思います。
社会保障の充実。
常日頃このようなアンケートで個々の意見を聞いて反映させる事。行政機関の方、頑張ってください。
色々面倒な手続きがなく参加出来るのがいいと思います。
青森県の人には健康に対する意識が他県に比べ低いと思います。食生活の改善、生活習慣の改善、寝たきりにならない為軽スポーツへの参加など、今あるスポーツ施設をもっと活用する。民間のスポーツ施設の利用など。全スポーツ施設、敷地内での禁煙!!を望みます。
青森市の講座を増やす。偏りがある運動を増やす。体育館があっても各サークルが独占している。教育をする。家族に迷惑がかかること。デイサービスの内容(自分はまだそんな歳になっていないとか、そんなところに行きたくない)。
雪国のせいか冬がとても暗いイメージを感じます。年金を受け取れる時期まで仕事出来る様にしてもらいたいです。
専門知識を持っている人と、持ってなくても興味があり参加したいと思う人たちが共同し、地域に根ざした①生活支援や②趣味、芸術活動、③健康増進など通し老若男女の総合的な交流が大事と思います。
退職が身近になってきた元気な人には、職場にいる間に仕事をやめた後の生活の場として活動できる団体等を紹介して欲しい。今の60代の方は健康であればとても頼りになるはず。それまで生きてきた経験はきっと何かの役に立つと思う。声をかけて下さい!
地域に住む高齢者は出かけるにも時間がかかり、外に出る機会も少なくなり交流も限られてくると思うので、交通も便利になると外に出る時間も増えてくると思います。
地域社会に出て行くのは大変な勇気が必要です。特に私の様に40才前に関西から青森に越してきた者にとっては。私の様な者でも地域社会との繋がりを求めています。こんなタイプの人間でも参加しやすい方法を、ネットで詳細な情報を流して頂けるとありがたいです。
地区の公民館をもっと気軽に利用できるようなといいと感じます。講座などではなく、いつでも誰とでも気軽に入館できるいいこの場・スペースを設け、自由に入りやすい場所にすべきと感じます。(現状は目的があっても入りにくい。)
町内の公民館などをもっと活用していく方が良くと思います。高齢者の為や子どもたちの為に月1000円位で身近に出来る事、お茶、お花、書道、エクササイズなどなど。住み良い町づくりを考えて下さればと思います。
町内会加入世帯と未加入世帯の不公平感が否めないで、全世帯の参加を目指して欲しい。
買物や通院等がしやすい様に無料のバスや車を用意する(特に交通が不便な地域)。高齢者しか住んでいない地域の人たちがすごく困っています。助けて下さい。
不満、不安の意見を広く聞く機会を作っていく。

【女性】55歳～59歳

経済面で不安なく暮らす為に年金生活における税金の軽減が必須と思いますが、行政では何が出来るのか？もうすぐ60才。待っているのは安心して年金暮らしが出来る事を目標に働いています。不安だらけの社会になったのではと思うこの頃です。
堅苦しくならないような自由な空間で、趣味を継続できる場の提供。毎日仲間がそばにいと多少の困難も解決できそう。例えば体を動かして少しずつ体力を付けて行く。忘れてしまいそうな郷土料理を、作って楽しむ時間と場所の提供。
公民館活動を活発に盛り上げる(町内会も)。身体が不自由になった時の施設はもっともっと必要。自殺者を出さない為の発信を頑張りたい。
高齢者が働ける所があるといい(元気な人に)。活動場所に行くための交通費がかからないようにして欲しい。どんな活動があるのか、情報を流して欲しい。
年金額を増す。医療費負担の減額。高齢者宅へ簡単に使用できる除雪機の配布(入口付近が片付けできる自動式か雪を融かせる設備)。北国は雪にチャレンジして欲しい。
第一線を退いた高齢者が引き続き仕事ができる仕組み(軽微な仕事)。高齢者が閉じこもらないよう地域コミュニティ活動を進めたい。他に頼り情報を集める事は良いと思うが、自ら施策を展開する事が必要ではないのか!
1つの場所で趣味に熱中したり、会話等いつでも誰もが(年代に関わらず)出入りできるような楽しめる所があればと思う。
あまりにも日本は外国と違い過ぎる。
アンケート調査をして思った事は「はい」と「いいえ」のどちらかにでしたが、自分の年代にすると両方に答えがあるように思いました。行政機関は「はい」と「いいえ」で答えを全部出すことなく、もっともっと寄り添って欲しいと思います。自分自身も生活面や健康面をより良くして元気に生きていければと心がけて暮らして行きたいと思います。
いろんな情報を届けて欲しい。
インターネット時代、出来ない人の為に広報などで教えて欲しい。
これといった趣味や資格も無く、他人と交流する場が無く家にこもりがちです。地域や人と交流するのが億劫になってきました。ボランティアというのは抵抗がありますが、何か求められる事があれば参加したいと思います。具体的にはわかりませんが、食と体力づくりには興味があります。
シニア学校で学べたら楽しみができる。交流が大切な事は理解しています。
シニア世代の就労場所の確保や福祉の充実。
シニア世代も交流出来る行事や、いつでも気軽に寄れる場所(いろんな趣味が出来たりとか)があればいいかなと思います。
ボランティアではなく仕事として定義付けてもらえたら、更にやる気おきます。八戸の街はとても寂しい。大きな本屋が無い。映画館もひどい。もう少し街に集まりたいと思わせる街づくりを。
みんなで楽しく遊べる場所があるんだよと郵便で一人一人に送るのはどうでしょうか。
一人にしない。交流の機会を設けても、そこへ行くまでの交通手段がないと出掛けられない。シニアでも出来る仕事をさせる(元気なら働きたいと思う)。
映画鑑賞、カラオケ、簡単な地域でできる体操(場所、仲間)
何をすることも健康、体調なので、まず地域で月1～2回健康管理とそれに対する運動と軽いレクリエーションをすることで家から出る気持ちになる、そこからだと思います。
活かせるスキルを登録してもらい、必要としている人や組織への橋渡しをする。コンサルにアンケートを依頼したりせず、自分たちで直接情報収集し実情を実感として把握するように努める。
気軽に集って話ができる場所があればいい。(同様回答1件)
空いている教室など利用し、シニアに合った勉強、健康教室など、常に誰かと接触し孤立しないように身体異常を早期発見 家族やケースワーカーと連携し、本人の希望に合った終り方が出来る様にただ長く生きても希望もなく無気力な老後生活より本人らしい生活をサポート、援助するべきだと思います。
経済的負担が大きく、少ない年金からの支出は精神的疲労を伴います。青森県は冬の燃料代が大変で、又雪かたづけも儘ならず業者をお願いすることになります。もっと冬の雪対策に力を入れてもらって、せめて屋根の雪降ろしや家の周りの雪かたづけを手伝ってもらえれば、今現在シニア世代の方も、またこれからシニア世代に突入する私達も安心して元気に生き生きと暮らせると思います。
月に一度のペースで訪問をして声がけをして欲しいです。
健康が一番大事なので健康寿命を延ばすため運動する機会を持たせ、認知症及び他の健康を維持するような教室を設ける事と、人は一人では生きられないので、それぞれ趣味などを通して人と交流出来るような場を多く作る事。ボランティアで講師をしていただいて・・・! と思います。
県、市という大きな区割りでは難しいと思います。町会毎に(町会同士)が集っていろいろな意見が交換できる場所があれば、大きな事は出来なくても新鮮な発想が生まれるのではと思います。
元気に暮らすには心と体の健康が必要なので、病気についての講座や健康診断の普及があればよい。孤独な人を行政の人が誘い出し仲間作りをしてあげるとよい。
行政機関が取り組むべき事は何か思い浮かばないが・・・ 昔と違い地域の交流が少なくなっている。私も含め自分の生活に追われて余裕がない。ここに住んで24年になるが一つ違う通りに住んでいる人の顔がわからない状態である。地域の役員は高齢者が多い。今後私達シニアに考える機会が必要である。

<p>高齢者が元気に暮らせる社会にする為には、若者も元気で暮らせる社会でなければならない。若者の雇用があれば青森県内で生活し活気ある青森県となる。Iターン、Uターン定住者を増やせる対策が必要。「再任用」や「定年延長」いかなものか。経済的にゆとりある方は全く無償のボランティアでよいと思うし、私も退職後はボランティアをしたいと思う。縦割り行政でなく横のつながりを強化して、よりよい青森県に!!(なればいいな) 時代錯誤の定年退職者が再雇用で高時給にも関わらず「半分ボランティアよ」などと言っているのを聞くと呆れてしまいます。</p>
<p>高齢者が毎日楽しみを持って集まる場所や行事、会合をする。子どもや若者も参加して世代交流できるイベントや集会等をする。お金がなくても参加出来るようにする。又高齢者や子どもは無料のバスを走らせて欲しい。土日曜日、祝日もバスを運行して欲しい。これは毎日の事です。学校が休みの時はバスの運休の地域もあり不便です。</p>
<p>高齢者だけの世帯の雪対策。冬期間の暖房費。</p>
<p>高齢者になる前から地域に参加する活動をしておかないと、いきなり高齢者になってからでは、活動も人もわからず社会に溶け込む事が出来ないと思う。年齢をこえて誰でも参加出来る活動を定期的に行なって行く事が必要と思う(仕事をしているとなかなか地域の活動に参加出来ないで、気軽に参加出来る休日の活動を増やして欲しい)。広報等掲載を早めにする。回覧板がまわるのは活動が終わってからのことが多いので、早めにわかるような手段を講じて欲しい。</p>
<p>高齢者にもっと仕事の場を与えられるようにして欲しい。元気があり健康なシニアはたくさんあります。もっともっと仕事をしたい人たちはいます。</p>
<p>今の世の中、周りが無関心な人が多いような気がします。誰でも気軽に参加出来て、あまり経済的負担が無い様な催事等あるといいですね。</p>
<p>今は自転車(徒歩)等で行けるが、年をとったら遠すぎて行けなくなる。</p>
<p>今まで以上のお知らせや世代を越えた取組、例えばと問われれば、これと言う事柄ははっきりわかりませんが、私としては色々な物に参加したいと思っています。</p>
<p>参加したい講座等、日中ではなく夜もあると良いと思う。</p>
<p>仕事があり、ある程度の収入があれば生き生きと暮らせると思うが、身体が不自由な場合、今よりもっと福祉が充実する必要がある。</p>
<p>市民センターだけでなく、色々な場所(例えばスーパーやデパートの中とか)で、認知症予防の運動をしてほしい。1/19(日)NHK放送のような。ボケずに健康な毎日を送りたい。いつもサンドームを利用していますが、ああいう場所がもっと増えて手軽にスポーツできるようにして欲しい。</p>
<p>私でも参加してみたいと思える行事や活動であってほしい。</p>
<p>私の住んでいる町内には子どもがほとんどおらず、一人暮らしの老人ばかりです。核家族で結婚するとほとんどマイホームを求め、郊外へと移り住んで行きます。すると冬の雪かき、除雪は隣近所の人が助け合いながらやっています。まわりはみんなシニアばかり、それを思うと体が資本ですから、健康でないと何も出来ません。いつまでも元気でいられるように生活、食事等体力維持、スポーツ等の指導、活動、セミナーを沢山開いて参加出来る様にして頂けたらと思います。</p>
<p>私は現在アパート暮らしをしています。自分の住んでいる町内で何が行なわれているか、何もわからない。持ち家、アパート関係なく町内の行事等の連絡方法を考えて欲しい。</p>
<p>室内で運動できる場所が充実している事。自動車運転が出来ない高齢者に対する送迎も考えて下さい。郊外型施設が多く、なかなか参加出来なくて残念に思っています。</p>
<p>集会の場を持ち、よく意見を聞いてくれること。</p>
<p>住みやすい町にしてもらいたいです。</p>
<p>少ない年金から色々な税金を引かれる為、節約生活であり外に出かける事が出来ません。生き生き生活は無理です。</p>
<p>障害者が暮らしやすい世の中にしてほしい。</p>
<p>情報のこまめな発信が必要だと思います。</p>
<p>色々な活動に気軽に気楽に参加出来るように、広報などもっと呼びかけする必要があると思います。</p>
<p>生涯学習できる様にサポートする(家庭、地域で存在を自覚できる。自己啓発できる様に、どなたにも得意な事があるはず)。</p>
<p>青森県は今も60才定年人口は少なく、多くの農商関係の人は80才でも現役で働くのが当たり前です。目標や生きがいがないれば生きていく気力を失う事も多いです。まずは生きる為に働かなければならない貧しさをどうにかして下さい。“じえんこ”沢山持っている人は少ないのです。まずは経済的な余裕があってこそ老後です。</p>
<p>同世代の交流、活躍などを知らせてくれる。</p>
<p>福祉関係の仕事をしています。高齢者や障害のある人に対して地域の人たちの理解、支援があって暮らしやすい社会になればいいですね。</p>
<p>毎日でなくても、出向いて世代のちがう人と仕事がある生活が必要だと思う。</p>

【性別不明】 45歳～59歳

まだ働く意欲があるシニアにも仕事をどんどん紹介して、社会に必要とされているというアピールをして欲しい。農地を無償で市民に提供して欲しい。家庭菜園を通して生きがいも持てるし、人々との交流も持てると思う。
今の世の中はシニアになってもいろんな場面でお金をとられる。税金等。どこの国かは忘れたが、若い時は税金や消費税等がとても高いが、シニアになった時には何も必要なくお金がかからない制度の国があった。老人には暮らしにくい。有料老人ホームは異常に高いし不安ばかりです。安泰なのは公務員など一部の人間です。自営業者は大変な世の中です。税金のあり方をどうにかして頂かないと、シニアになる前に暮らしていけなくなります。
各機関の予算にとらわれず必要な取組に対し、予算を回せる様に組織改革・システムの改革が必要です。
まだまだ元気なシニアに仕事を、例えば若い人たちが子どもの事を心配しないで働けるように「よそのおばあちゃん」に預けられるシステム作り、予算とか、保障とか。

第3章 考察

本調査では、プレ・シニア世代の県民が現状としてどれほど地域の活動に関わっているのか、また、今後シニア世代となった時に、地域活動への参加希望がどれほどあるのかについて伺い、行政がどのような支援をすべきかについて探るために実施したものである。

調査結果に基づき、研究顧問のお二人に考察を御執筆いただいた。

ポイントは次のとおりである。

◇現状について

- 1 プレ・シニア世代の地域との関わり方については、町内会や自治会、子ども関係といった地縁的な活動への参加が多い。また、参加のきっかけは自発的というよりも、活動の主体となっている人から要請されたり、誘われたりして参加している場合が多い。
- 2 地域の活動に参加しない理由として、仕事が忙しいからとの結果が出ているが、地域の行事や子ども関係の行事には顔を出すことによって、地域社会のつながりや教育力を維持しようとしていることがうかがえる。
- 3 このような状況は、ややもすれば消極的であるとも捉えられるが、「お互いさま」や「お世話になったから」という「つながりの力」は、「遠慮がちな」ソーシャル・キャピタル（人と人とのつながりが持つ力）と呼ぶことができ、コミュニティづくりを支えてきたと言える。
- 4 公民館等を地縁的な小集団の学習場所として活用すること、趣味を学ぶ場として位置づけることが必要。同じ関心を持つ人々が共同的に学びあい高めあうことでつながりを生み、地域に広まっていくことで県民の学習活動が活発になることが期待できる。

◇意識について

- 1 昨今、社会問題となっているシニア世代の孤立化傾向は、プレ・シニア世代から社会参加活動を行うことにより解消可能であり、プレ・シニアの時期から学習や発表の機会を多く持つことが大切である。
- 2 行政は学習機会の充実とともに、シニア世代にとって「興味のある活動を自ら創造する」学習プログラムを開発する必要がある。
- 3 インプット（学習）したものをアウトプット（成果の発表）することは学習の継続につながり、学習の効果も期待できる。
- 4 行政は、異世代との交流を行っている人向けに、地域課題を住民が主役となって解決するような活動を行うための仕組みをつくり提供すること、反対に人とのかかわりを広げるのが億劫であるとする人向けには、他者と接触する機会や交流できる場づくりをするなどの支援を行うことが必要である。

◇まとめ

- 1 プレ・シニア世代は、その後の人生をどう過ごすかをじっくり考え準備する期間であり、この生き方への心構えが十分に行われたか否かが、シニア期に生きがいのある人生を過ごすことにつながる。
- 2 プレ・シニア世代の学習活動は“生活者”の学習であり、自らの次の生き方を考え選択できる「学び直し」の学習期、自主的な社会参加活動へ結びつく学習期である。その顕在能力をシ

ニア世代になってから有効活用することが、地域における住民同士の新たな支え合いにつながる。

- 3 学習の結果や成果を発表し表現することは、学習する内容の深化と広がりにつながる。
- 4 シニア世代が、就業、ボランティア活動への参加、家族生活における役割分担等を通して、自分自身をできる限り自立的に維持する能力を持ち、生きがいを持って生活できるようにするため、プレ・シニア世代がゆとりを見出しながら学べる学習プログラムを開発・提供することが喫緊の課題と言える。

1 現状について

(1) 現在の地域との関わり方

ア 「仕事以外での地域活動や社会貢献活動」から読み取れること

まずは問4の結果を簡単にまとめてみたい。問4-①「仕事以外で地域活動や社会貢献活動に参加したことがありますか」では、「はい」が約40%、「いいえ」が約60%であった。このうち、「はい」と答えた方に問4-②「参加したのはどんな活動ですか」と尋ねたところ（複数回答）もっとも多いのは「町内会・自治会活動」(22.0%)、そして「清掃、環境保全活動」(16.9%)、「地域のお祭りや行事」(13.3%)、「子どもの健全な育成やPTA活動」(12.4%)と続く。さらに、問4-③「参加したきっかけ」によると、これらの地域活動・社会貢献活動に参加したきっかけとして、「活動の主体となっている人から参加を要請された」「自治会や町内会に誘われた」が30.4%でもっとも多くなっている。

以上からわかることは、県内のプレ・シニア世代の地域活動・社会貢献活動とは、町内会・自治会、あるいは子ども関係など、伝統的な地域共同体を基盤とした地縁的な活動が多いということである。一方、市民活動のような個人の自発性に基づいた活動は多くない。参加した「きっかけ」についても同様の傾向が読み取れる。自発的というよりも、「要請され」たり、「誘われて」参加する。これが県内のプレ・シニア世代の地域活動の現状である。

イ 「遠慮がちな」つながりとしての評価

しかし、このことをもって、県内のプレ・シニア世代の自発性を単純に問題視するのは正しい評価とはいえないであろう。むしろ、県内のプレ・シニア世代は、居住する地域社会において、たとえ仕事が忙しかったとしても、地域行事や子ども関係の行事に顔を出し、「お互いさま」の感情のもとで、地域社会の紐帯や教育力をなんとか維持しようとしているといえるのではないだろうか。

今村晴彦ら（2010）は、このように日本の地域社会を支えてきた「お互いさま」や「お世話になったから」という「つながりの力」を「遠慮がちな」ソーシャル・キャピタルと表現している。ソーシャル・キャピタルとは、人と人とのつながりがもつ力のことであるが、今村らのいう「遠慮がちな」ソーシャル・キャピタルとは、ややもするとこれまで否定的に評価されてきた「自分から手を挙げるのではなく、誘われたら参加する」「周りの人に悪いからという気持ちから協力する」という行動が、日本の地域社会を支え人びとの社会性を生みだし、「いいコミュニティ」を創りだしてきたというものである（今村ほか、2010、p.293）。

このように控えめで地縁的なつながりは、一方では「しがらみ」を生むと批判されてきた。しかし今回の調査の問4-④「参加しなかった理由」をみると、「人間関係や近所づきあいを広げたくなかった」「何かしらの責任や役目を負わされそうだった」との回答は、それぞれ

1.9%、2.8%となっており、県内のプレ・シニア世代が居住する地域社会において強固な「しがらみ」が生じているとは言いにくい。

ウ 地縁的な小集団への支援

このようにみると、プレ・シニア世代を対象とする今後の支援としては、地縁的な小集団の学習を支援することが求められるといえるだろう。そのことは結果として、「地域の力」や「地域の教育力」を高めることにつながるといえる。問4-④「参加しなかった理由」をみると、「仕事が忙しかった」「家庭のことで忙しかった」という「時間的な余裕のなさ」を挙げる回答が多いが、そのようなそれぞれの「忙しさ」の合間を縫って、新しい活動に参加してもらうのは困難であると思われる。

むしろ、実際にいま参加している地縁的な活動での学習を支援し、個人がその地縁的な活動への参加を深めるなかで、そこから新しい活動や発展的な活動へと、ときに自発的に、関心を広げていくような支援を目指した方が現実的であり、効果的である。牧野篤（2009）は、学ぶことによって自分に予期せぬ変化が起こっていることを、学んだ後において事後的に感じとることで、わくわくする感覚をもつがためにさらに学びたくなったり、ますます自分をその活動に深くかかわらせるような性格のものを「過剰達成」とよぶ（牧野、2009）。地縁的な小集団での学習をとおして、「過剰達成」をはたせるような支援をめざすことが重要ではないかといえる。

(2) 学びへの参加状況

ア 社会教育施設の利用状況

問5「社会教育施設を利用しましたか」では社会教育施設の利用状況を尋ねているが、これによると、「利用していない」(50.9%)がもっとも多い。利用者のなかでは、「自分の趣味や教養を深めるため」(14.6%)という利用目的が一番多い。続いて、問6「講座やセミナー等への参加状況」をみると、これについても「参加していない」(50.7%)がもっとも多くなっている。一方、実際に参加した者の講座内容については、「職業上必要な知識や技能の習得、資格の取得」(16.1%)がもっとも多い。そのほかの趣味的なもの、教養的なもの、スポーツ・レクリエーションなどの講座参加は、いずれも数%台となっている。これらのことは、県内のプレ・シニア世代にとって、社会教育施設は決して身近な施設とはなっていないことを示している。

イ 学習の実際と施設の利用

このような施設利用者数や講座参加者数については、プレ・シニア世代に限らず、あらゆる世代に共通する社会教育行政全体の課題であり、これまでも指摘されてきたことではある。一方、今回の調査は、施設や講座の参加者数を増加するための方策についていくつかの示唆を与えるものとなっている。ここでは2点指摘する。

1つは、地縁活動との関係である。問4の結果のとおり、「仕事以外での地域活動や社会貢献活動」では地域社会の行事や、子ども関係の行事など地縁的な活動をする割合が多かった。ところが、問5の施設利用目的をみると、「地域活動に役立てるため」に施設を利用する者の割合は5.8%と少ないことがわかる。このことは、プレ・シニア世代の地縁的な活動において社会教育施設が十分に活用されていないことを示唆している。つまり今後は、公民館など地域に密着した社会教育施設を舞台として地縁的な小集団の学習を支援する事業等を開催したり、活動の場を提供することによって、社会教育施設も活発になり、同時に地域の力も高まるという

ことを期待できるのではないだろうか。

もう1つは、趣味に関する学習である。問3をみると、プレ・シニア世代では、何らかの趣味を持っている人が多いように思われる。一方、それに比べて問5や問6をみると、実際に趣味を深めるために社会教育施設を利用したり、趣味的なものを学ぶ講座に参加する割合は低い。プレ・シニア世代にとって、社会教育施設や事業は、趣味を学ぶ場として位置づいてはいないといえる。

趣味に関する学習については、「個人的な学習」であり、自治体が支援するにはそぐわないという意見もあるが、社会教育とは、本来、同じ関心をもつ人びとが共同的に学びあい高めあうことである。「趣味」や「地域づくり」などによる垣根を過度に設けるのではなく、趣味について学びあうことで、「つながり」が生まれ、やがて地域に広がっていく。実際にプレ・シニア世代で趣味を持つ人が多く、しかしにもかかわらず社会教育施設が趣味の学習として十分に活用されていないならば、今後は趣味の学習を支援することによって、それをきっかけとして施設利用者や講座参加者が増え、人びとの学習が活発になることが期待されるのではないかと思われる。

(参考文献)

今村晴彦・園田紫乃・金子郁容

『コミュニティのちから—“遠慮がちな”ソーシャル・キャピタルの発見—』慶應義塾大学出版会、2010年
牧野 篤

『シニア世代の学びと社会—大学がしかける知の循環—』勁草書房、2009年

(弘前大学 教育学部 講師 松本 大)

2 意識について

(1) 就労期間及び退職後の学びの希望

ア 将来の地域活動や社会貢献活動への希望状況

問7-①の結果から、シニア世代になったとき、地域活動や社会貢献活動などに「参加したい」と回答者の65.7%が回答している。

定年退職(55~65歳)後の人生は、平均的に20~30年(165,600~262,800時間)にも及ぶと言われる。しかもその多くの時間は、身体が比較的元気で活発に社会活動ができる時期でもある。そのことが、問7-②のシニア世代になったとき、参加したいと思う地域活動や社会貢献活動の内容のトップに「スポーツ、レクリエーション」(14.8%)があり、続いて「清掃、環境保護活動」(12.0%)、「地域づくり・まちづくり」(10.8%)、「高齢者や障害を持つ方の手助け」(10.4%)、「地域のお祭りや行事」(10.0%)と回答していることからうかがえる。逆に参加の希望が低いものに、強い動機付けが必要とされる「防犯、交通安全運動」(3.8%)がきていることや、子育てが終わったシニア世代にとって、「子どもの健全な育成やPTA活動」(4.9%)がくるのは理解できる。

イ 参加が難しいとする状況

問7-③において、参加が難しいと思う場合での参加できるという条件のトップに「時間に余裕があること」(21.6%)と回答しているが、これはまだシニア世代を実感していないこともあり、プレ・シニアである回答者の想像の範囲での回答であるということを考慮する必要がある。続いて「経済的負担が軽いこと」(16.7%)、「興味のある活動があること」(15.9%)、「体調が

良いこと」(15.7%)、「堅苦しさがなく、気軽に参加できること」(15.2%)を回答しており、必要条件と言うよりも十分条件の要素が多いのが特徴となっている。

ウ プレ・シニア世代への支援

シニア世代になってからの孤立化傾向は、早期（プレ・シニア世代）から社会参加活動を行うことによって解消することが可能である。また、これらの回答結果からプレ・シニア世代向けに地域（社会）とコミットする仕方や方法、多様な集団内での人間関係のコミュニケーションスキル、自己のポジショニングの取り方などに関する学習の機会の充実が望まれることと、シニア世代に「興味のある活動」を自らが創造するような学習機会とプログラムの開発が必要であることがわかる。

(2) 学んだ知識の活用や表現

ア 学びの成果の発表や表現

インプット（学習）したものをアウトプット（社会参加活動などの成果の発表）することは、その後の学習継続につながり、学習の効果も期待できるが、本調査では、問8-①において、学んだ知識を発表や表現したいと思うかという問に対し、回答者の約7割（69.1%）が「いい」と回答しているのは意外な結果である。

また、問8-②では、学びの発表や表現の方法について聞いているが、回答の上位から、「職場の後輩に教える」(17.7%)が群を抜いており、続いて「展示会や即売会で披露する」(10.8%)、「講演会や講座、セミナー等で講師を務める」(9.8%)、「団体やグループに所属して指導役になる」と「子ども会やPTA活動で子どもたちに教える」(9.4%)、「町内会や自治会で役職を請け負う」(9.0%)の回答順となっている。

加えて「職場の後輩に教える」という回答を裏付けるように、問9の仕事以外のどんな場面で生かせると思うかという設問に対しては、「生かせることはないと思う」(24.1%)が最も多く、「職業に関する専門的知識や仕事の内容を教えることができる」(19.3%)、「雇用の延長や再就職、シルバー人材など収入を得るために役立つ」(18.8%)が上位となっている。

イ 現在の仕事と将来との相関関係

この回答結果について、クロス集計はおこなっていないが、「職業に関する専門的知識や仕事の内容を教えることができる」(19.3%)という回答が上位にきているのは、問2の回答者の職業を尋ねる設問項目で、「専門的、技術的職業」が2番目であることから、相関関係があるものと推察ができる。（より深く分析すれば、その他諸々の職業が1番の回答結果なので、実際には「専門的、技術的職業」がトップの回答項目になる。）

ところで、人間は人様の役に立っている、世の中の役に立っているという自分の存在価値が分かるとき、生きている実感（「生きがい」）を感じ取ることができると言われている。その意味では、退職等により職場等での存在から離れて、個人としての存在が生活の主になったときにでも、他者との交流や何かに取り組み、燃焼することの楽しさを持ち続けられるような学習の機会、さらには発表の機会をプレ・シニアの時代から多く持つことが大切であることがわかる回答内容である。

(3) 同世代・異世代との交流

ア 異世代との交流状況

問10-①では、現在の居住地での異世代との交流の有無について、「はい」の回答が64.5%であり、居住空間での交流が十分行われている内容の回答結果となっている。

その具体的な場面を聞いた問10-②では、「地域のお祭りや行事」(22.7%)と「清掃などの町内会活動」(22.2%)が20%台を超えており、続いて「共通の趣味」(17.8%)、「PTA活動での関わり」(11.0%)の4項目が上位にきている。

また、問10-③において、自分より年上の世代との交流の場を尋ねたところ、回答で目立った上位3項目についても「清掃などの町内会活動」(35.7%)、「共通の趣味」(22.5%)、「お祭りや地域活動」(18.8%)となっており、問10-②と同様の回答内容となっているのが特徴としてあらわれている。

この回答順位から考えると、昨今の住民力の向上につながる地域課題をそれぞれの住民が主役となって解決するような活動を行う同世代、異世代の交流のしくみづくりの必要性を痛感する。ただ、実際には、その他の項目の自由記述の内容も含め、多様な価値観をもって交流に参加していることがわかるので、今後はより詳細な地域空間での住民同士の関係性を調査する必要がある。

イ 将来の交流希望調査から見える問題点

問11-①では、シニア世代になったときに、異世代との交流や協働は必要であると、回答者の87.2%にあたる506名が回答しているが、この数字は実態との延長線上で判断すると十分に理解できる。

しかも、その交流や協働の内容は、問7-②や問10-③の回答結果と同様な傾向にあり、本問が複数回答ではあっても「清掃、環境保護活動」(13.6%)、「地域のお祭りや行事」(11.8%)、「町内会、自治会活動」(10.6%)、「高齢者や障害を持つ方の手助け」(10.5%)、「地域づくり、まちづくり」(10.3%)が上位にきている。

一方、シニア世代になったとき、異世代との交流や協働は「必要ない」という理由の回答(問11-③、単数回答)は、「人との関わりを広げることが億劫だ」(32.1%)、「仕事や家族のことで忙しく余裕がない」(28.2%)、「どこでどんな活動があり、どんな人が求められているのかわからない」(16.7%)の3項目が突出して高い数字となっている。とりわけ「人との関わりを広げることが億劫だ」が回答者の3割を占めていることは、高齢者の人間関係の狭さ、それによる孤立化などの問題が指摘されている昨今の傾向が、本調査結果からもうかがい知ることができるものとなっている。

学習の場(機会)や地域での交流の場(機会)が、自分の存在を確認できる空間でもあることを考えれば、シニア世代が自己有用感を持って生き生きと過ごすためにも、他者との接触する機会、交流できる場づくりは大切にしたい。

3 まとめ

本調査では45歳以上60歳未満を「プレ・シニア世代」と称しているが、シニア世代へのテイク・オフ(離陸)状態にあるこの世代は、その後の人生をどう過ごすかをじっくりと考え準備する期間である。この生き方への心構えが十分に行われたか否かが、その後の成り行きまかせではない、悔いのない生きがいのある人生を過ごすことにつながる。

その意味ではプレ・シニア世代の学習活動は、「生活者」の学習であり、既知の経験をもとに、

現実的制約の中で自らの次の生き方を考え選択できる「学び直し」の学習期であり、自主的な社会参加的活動へ結びつく学習期でもある。

本調査の問4に関連する質問で、回答者の6割以上が仕事以外でこの半年間に地域活動や社会貢献活動などの社会参加活動に「参加したことがない」と回答していることと、問5の質問で公民館等の社会教育施設の利用についても5割以上が「利用したことがない」と回答していることは、参加しなかった理由の上位にある「仕事が忙しかった」、「家庭のことで忙しかった」、「これまで参加したことがないから」などから判断して、プレ・シニア世代が「ゆとりのない」生活を過ごしている実態だと受け止めてよいだろう。「ゆとり」は与えられるものではなく、自らが作り出すものであると考えれば、そのための学習プログラムの開発は可能である。

いずれにせよ、地域における住民同士の新たな支え合いの必要性が求められている現在、実社会での就業経験を通じて体得したプレ・シニア世代の顕在能力は、シニア世代になってからの有効活用が期待されている。

シニア世代が地域社会とコミットする社会参加活動とは、地域社会とのかかわりを志向する活動であり、「学んだことを地域のかかわりの中で何かに役立たせる」ことにある。その意味では、本調査における問8の回答結果には注目する必要がある。学習の結果・成果を発表し、表現するということは学習する内容の深化と広がりにつながる。マズローの欲求段階説に従えば、①生存に関するもの（最低限の要求）、②生活の向上に関するもの（量の要求）、③生きがいに関するもの（質の要求：何かの誰かの役に立っている）と自己実現を追求する学習につながるからである。しかもシニア世代の社会参加活動による生活上の変化には、①視野の広がり、②新しい人間関係の広がり、③日常生活の充実感、④時間の使い方などがあり、すべてが充実した生活と結びつくものである。

最後に今回の調査結果から、近年の年金制度だけでは高齢者の生活の所得保障をすることが困難になりつつあり、シニア層も生きがいをもってできるだけ働きたいという意識を強く持っていることが、問12の「自由記述」中の多くの回答者の記述内容からうかがわれる。わが国のような高齢化社会にあって、シニア世代が雇用労働力として就業したり、ボランティア活動に参加したり、あるいは家族生活の中で必要な役割を分担したり、自分自身をできる限り自立的に維持したりする能力を持つ「プロダクティブ・エイジング」として生きがいを持って生活できるようになることは重要な課題である。その意味でもプレ・シニア世代がゆとりを見いだしながら学べる学習プログラムを開発する必要性・緊急性が、この調査結果から読み取ることができる。

（青森公立大学 経営経済学部 教授 内海 隆）

第4章 資料

1 単純集計結果表

◎結果数値（パーセント＝％）は、小数第2位を四捨五入して第1位まで表示しています。

問1 (1) あなたの性別と年齢及びお住まいの地域を教えてください。－性別		度数	パーセント	有効パーセント	累計パーセント
有効	1 男性	241	41.6%	41.9%	41.9%
	2 女性	334	57.6%	58.1%	100.0%
	合計	575	99.1%	100.0%	
欠損値	無回答	5	0.9%		
合計		580	100.0%		

問1 (2) あなたの性別と年齢及びお住まいの地域を教えてください。－年齢		度数	パーセント	有効パーセント	累計パーセント
	3 45歳～49歳	147	25.3%	25.5%	25.5%
	4 50歳～54歳	202	34.8%	35.1%	60.6%
	5 55歳～59歳	227	39.1%	39.4%	100.0%
	合計	576	99.3%	100.0%	
欠損値	無回答	4	0.7%		
合計		580	100.0%		

問1 (3) あなたの性別と年齢及びお住まいの地域を教えてください。－お住まいの地区		度数	パーセント	有効パーセント	累計パーセント
	6 東青地区	131	22.6%	24.1%	24.1%
	7 西北地区	62	10.7%	11.4%	35.5%
	8 中南地区	117	20.2%	21.5%	57.1%
	9 上北地区	66	11.4%	12.2%	69.2%
	10 下北地区	27	4.7%	5.0%	74.2%
	11 三八地区	140	24.1%	25.8%	100.0%
	合計	543	93.6%	100.0%	
欠損値	無回答	37	6.4%		
合計		580	100.0%		

問1 (4) あなたの性別と年齢及びお住まいの地域を教えてください。－お住まいの市町村		度数	パーセント	有効パーセント	累計パーセント
	12 市に在住	474	81.7%	91.9%	91.9%
	13 町に在住	36	6.2%	7.0%	98.8%
	14 村に在住	6	1.0%	1.2%	100.0%
	合計	516	89.0%	100.0%	
欠損値	無回答	64	11.0%		
合計		580	100.0%		

問2 あなたの職業について教えてください。		度数	パーセント	有効パーセント	累計パーセント
	1 管理的職業	44	7.6%	7.7%	7.7%
	2 専門的、技術的職業	90	15.5%	15.7%	23.3%
	3 事務職	68	11.7%	11.8%	35.1%
	4 販売職	32	5.5%	5.6%	40.7%
	5 サービス職	67	11.6%	11.7%	52.3%
	6 保安職	2	0.3%	0.3%	52.7%
	7 農林漁業	40	6.9%	7.0%	59.7%
	8 生産工程作業、労務管理	22	3.8%	3.8%	63.5%
	9 輸送、機械運転	13	2.2%	2.3%	65.7%
	10 建設、採掘	18	3.1%	3.1%	68.9%
	11 運搬、清掃、包装等	13	2.2%	2.3%	71.1%
	12 公務員、教員等	54	9.3%	9.4%	80.5%
	13 上記以外	112	19.3%	19.5%	100.0%
	合計	575	99.1%	100.0%	
欠損値	無回答	5	0.9%		
合計		580	100.0%		

問3 (1) あなたの趣味と、資格があれば教えてください。－趣味（※複数回答有）		度数	パーセント	有効パーセント	累計パーセント
	1 スポーツ（観戦、実践）	216	14.7%	15.0%	15.0%
	2 健康、エクササイズ	65	4.4%	4.5%	19.5%
	3 芸術（鑑賞、創作）	107	7.3%	7.4%	27.0%
	4 音楽（鑑賞、演奏）	157	10.7%	10.9%	37.9%
	5 園芸、ガーデニング、盆栽	120	8.2%	8.3%	46.2%
	6 手芸	81	5.5%	5.6%	51.8%
	7 コンピュータ、ゲーム	67	4.6%	4.7%	56.5%
	8 料理、食へ歩き	157	10.7%	10.9%	67.4%
	9 大工、DIY	36	2.5%	2.5%	69.9%
	10 伝統（茶道、華道、書道）	35	2.4%	2.4%	72.3%
	11 収集、コレクション	22	1.5%	1.5%	73.9%
	12 釣り	68	4.6%	4.7%	78.6%
	13 製作（模型、パズル、ペーパークラフト）	29	2.0%	2.0%	80.6%
	14 旅、温泉めぐり	169	11.5%	11.7%	92.4%
	15 学問、語学（英会話、読書、歴史）	82	5.6%	5.7%	98.1%
	16 その他	28	1.9%	1.9%	100.0%
	合計	1439	98.0%	100.0%	
欠損値	無回答	30	2.0%		
合計		1469	100.0%		

問3 (2) あなたの趣味と、資格があれば教えてください。－資格（※複数回答有）		度数	パーセント	有効パーセント	累計パーセント
	a 仕事に関するもの	294	45.3%	69.2%	69.2%
	b 趣味に関するもの	87	13.4%	20.5%	89.6%
	c 家庭生活に関するもの	24	3.7%	5.6%	95.3%
	d その他	20	3.1%	4.7%	100.0%
	合計	425	65.5%	100.0%	
欠損値	無回答	224	34.5%		
合計		649	100.0%		

問4-① 最近（回答日以前の半年間程度）、仕事以外で地域活動や社会貢献活動に参加したことがありますか。（いずれか1つに○）					
		度数	パーセント	有効パーセント	累計パーセント
	1 はい	221	38.1%	38.2%	38.2%
	2 いいえ	358	61.7%	61.8%	100.0%
	合計	579	99.8%	100.0%	
欠損値	無回答	1	0.2%		
合計		580	100.0%		

問4-② 参加したのどんな活動ですか。（あてはまるものすべてに○）（※複数回答有）					
		度数	パーセント	有効パーセント	累計パーセント
	1 高齢者や障害を持つ方の手助け	17	3.8%	3.8%	3.8%
	2 子育て支援	9	2.0%	2.0%	5.9%
	3 子どもの健全な育成やPTA活動	55	12.4%	12.4%	18.2%
	4 地域づくり・まちづくり	24	5.4%	5.4%	23.6%
	5 文化、芸術、伝統芸能	22	4.9%	5.0%	28.6%
	6 スポーツ、レクリエーション	42	9.4%	9.5%	38.1%
	7 清掃、環境保護活動	75	16.9%	16.9%	55.0%
	8 町内会、自治会活動	98	22.0%	22.1%	77.0%
	9 防犯、交通安全運動	20	4.5%	4.5%	81.5%
	10 地域のお祭りや行事	59	13.3%	13.3%	94.8%
	11 国際交流、親善活動	12	2.7%	2.7%	97.5%
	12 その他	11	2.5%	2.5%	100.0%
	合計	444	99.8%	100.0%	
欠損値	無回答	1	0.2%		
合計		445	100.0%		

問4-③ 活動に参加したきっかけは何ですか。（2つまで○）（※複数回答有）					
		度数	パーセント	有効パーセント	累計パーセント
	1 もともと趣味や問題意識を持っていて、機会を待っていた	37	11.5%	11.5%	11.5%
	2 県や市町村の広報やチラシ、ホームページを見て興味を持った	10	3.1%	3.1%	14.6%
	3 持っている資格や趣味、特技を生かしたいと思った	28	8.7%	8.7%	23.4%
	4 活動の主体となっている人から参加を要請された	98	30.4%	30.5%	53.9%
	5 自治会や町内会に誘われた	98	30.4%	30.5%	84.4%
	6 友人や知人に誘われた	33	10.2%	10.3%	94.7%
	7 家族に勧められた	6	1.9%	1.9%	96.6%
	8 その他	11	3.4%	3.4%	100.0%
	合計	321	99.7%	100.0%	
欠損値	無回答	1	0.3%		
合計		322	100.0%		

問4-④ 参加しなかった理由は何ですか。（2つまで○）（※複数回答有）					
		度数	パーセント	有効パーセント	累計パーセント
	1 仕事が忙しかった	176	30.5%	30.6%	30.6%
	2 家庭のことで忙しかった	94	16.3%	16.3%	47.0%
	3 友人や知人に誘われなかった	19	3.3%	3.3%	50.3%
	4 人間関係や近所づきあいを広げたくなかった	11	1.9%	1.9%	52.2%
	5 何かしらの責任や役目を負わされそうと思った	16	2.8%	2.8%	55.0%
	6 広報やチラシなどの情報が届かなかった（見逃した）	31	5.4%	5.4%	60.3%
	7 これまで参加したことがないから	108	18.7%	18.8%	79.1%
	8 近所に興味のある活動がなかった	56	9.7%	9.7%	88.9%
	9 そもそも地域での活動や社会貢献に興味がない	33	5.7%	5.7%	94.6%
	10 その他	31	5.4%	5.4%	100.0%
	合計	575	99.7%	100.0%	
欠損値	無回答	2	0.3%		
合計		577	100.0%		

問5 最近（回答日以前の半年間程度）、社会教育施設を利用しましたか。どのような目的で利用したのか選んでください。（あてはまるものすべてに○）（※複数回答有）					
		度数	パーセント	有効パーセント	累計パーセント
	1 地域活動に役立てるため	40	5.8%	6.2%	6.2%
	2 自分の趣味や教養を深めるため	101	14.6%	15.6%	21.8%
	3 仕事に役立てるため	41	5.9%	6.3%	28.2%
	4 家庭生活を豊かにするため	17	2.5%	2.6%	30.8%
	5 健康や体力づくりのため	39	5.7%	6.0%	36.8%
	6 人との付き合いを広げるため	29	4.2%	4.5%	41.3%
	7 待ち合わせや休憩のため	11	1.6%	1.7%	43.0%
	8 その他	17	2.5%	2.6%	45.7%
	9 利用していない	351	50.9%	54.3%	100.0%
	合計	646	93.6%	100.0%	
欠損値	無回答	44	6.4%		
合計		690	100.0%		

問6 最近（回答日以前の半年間程度）、何かの講座やセミナー等に参加しましたか。強く印象に残っている、あるいは非常に参考になったと感じている学習活動について選んでください。（3つまで○）（※複数回答有）					
		度数	パーセント	有効パーセント	累計パーセント
	1 職業上必要な知識や技能の習得、資格の取得など	109	16.1%	17.2%	17.2%
	2 芸術や茶華道、囲碁や将棋など、趣味的なもの	21	3.1%	3.3%	20.6%
	3 料理や裁縫など、家庭生活に役立つもの	12	1.8%	1.9%	22.5%
	4 語学や歴史など、教養的なもの	19	2.8%	3.0%	25.5%
	5 健康的な生活や、スポーツ・レクリエーションなどに関するもの	39	5.7%	6.2%	31.6%
	6 情報端末やコンピュータ、インターネットに関するもの	8	1.2%	1.3%	32.9%
	7 社会問題や時事問題、環境問題などに関するもの	8	1.2%	1.3%	34.2%
	8 育児や家庭教育、教育問題に関するもの	21	3.1%	3.3%	37.5%
	9 ボランティア活動やNPOのために必要な知識や技能に関するもの	19	2.8%	3.0%	40.5%
	10 自然体験や生活体験などの体験活動	4	0.6%	0.6%	41.1%
	11 地域づくり・まちづくりに関するもの	24	3.5%	3.8%	44.9%
	12 その他	4	0.6%	0.6%	45.6%
	13 参加していない	344	50.7%	54.4%	100.0%
	合計	632	93.1%	100.0%	
欠損値	無回答	47	6.9%		
合計		679	100.0%		

問7-① あなたが高齢者（シニア世代）になったとき、地域活動や社会貢献活動に参加したいと思いますか。（いずれか1つに○）

	度数	パーセント	有効パーセント	累計パーセント
1 はい	381	65.7%	66.3%	10.4%
2 いいえ	194	33.4%	33.7%	66.3%
合計	575	99.1%	100.0%	100.0%
欠損値	無回答	5	0.9%	
合計	580	100.0%		

問7-② どんな活動に参加したいですか。（あてはまるものすべてに○）（※複数回答有）

	度数	パーセント	有効パーセント	累計パーセント
1 高齢者や障害を持つ片の手助け	103	10.4%	10.4%	10.4%
2 子育て支援	88	8.9%	8.9%	19.3%
3 子どもの健全な育成やPTA活動	49	4.9%	5.0%	24.3%
4 地域づくり・まちづくり	107	10.8%	10.8%	35.1%
5 文化、芸術、伝統芸能	90	9.1%	9.1%	44.2%
6 スポーツ、レクリエーション	147	14.8%	14.9%	59.1%
7 清掃、環境保護活動	119	12.0%	12.0%	71.2%
8 町内会、自治会活動	90	9.1%	9.1%	80.3%
9 防犯、交通安全運動	38	3.8%	3.8%	84.1%
10 地域のお祭りや行事	99	10.0%	10.0%	94.1%
11 国際交流、親善活動	52	5.3%	5.3%	99.4%
12 その他	6	0.6%	0.6%	100.0%
合計	988	99.8%	100.0%	
欠損値	無回答	2	0.2%	
合計	990	100.0%		

問7-③ 参加が難しいと思う場合、参加するための条件は何ですか。（あてはまるものすべてに○）（※複数回答有）

	度数	パーセント	有効パーセント	累計パーセント
1 体調がよいこと	83	15.7%	15.8%	15.8%
2 時間に余裕があること	114	21.6%	21.7%	37.5%
3 経済的負担が軽いこと	88	16.7%	16.7%	54.2%
4 興味のある活動があること	84	15.9%	16.0%	70.2%
5 堅苦しさがなく、気軽に参加できること	80	15.2%	15.2%	85.4%
6 わかりやすく広報がされていること	28	5.3%	5.3%	90.7%
7 表彰されたり評価されること	2	0.4%	0.4%	91.1%
8 活動者からの誘いがあること	17	3.2%	3.2%	94.3%
9 条件に関わらず参加したくない	26	4.9%	4.9%	99.2%
10 その他	4	0.8%	0.8%	100.0%
合計	526	99.8%	100.0%	
欠損値	無回答	1	0.2%	
合計	527	100.0%		

問8-① あなたが高齢者（シニア世代）になったとき、それまでの仕事や趣味を通して学んだ知識を、発表したり表現したいと思いますか。（いずれか1つに○）

	度数	パーセント	有効パーセント	累計パーセント
1 はい	177	30.5%	30.6%	30.6%
2 いいえ	401	69.1%	69.4%	100.0%
合計	578	99.7%	100.0%	
欠損値	無回答	2	0.3%	
合計	580	100.0%		

問8-② 発表や表現の方法として、どんなことが考えられますか。（2つまで○）（※複数回答有）

	度数	パーセント	有効パーセント	累計パーセント
1 講演会や講座、セミナー等で講師を務める	27	9.7%	9.8%	9.8%
2 講座やセミナーを主催する	17	6.1%	6.2%	16.0%
3 展示会や即売会で披露する	30	10.8%	10.9%	26.9%
4 職場の後輩に教える	49	17.7%	17.8%	44.7%
5 仲間を誘って団体や活動グループを主宰する	23	8.3%	8.4%	53.1%
6 団体やグループに所属して指導役になる	26	9.4%	9.5%	62.5%
7 スポーツ少年団で教える	14	5.1%	5.1%	67.6%
8 子ども会やPTA活動で子どもたちに教える	26	9.4%	9.5%	77.1%
9 ITを利用して情報発信する	11	4.0%	4.0%	81.1%
10 起業する	12	4.3%	4.4%	85.5%
11 NPOを立ち上げる	6	2.2%	2.2%	87.6%
12 町内会や自治会で役職を請け負う	25	9.0%	9.1%	96.7%
13 その他	9	3.2%	3.3%	100.0%
合計	275	99.3%	100.0%	
欠損値	無回答	2	0.7%	
合計	277	100.0%		

問9 あなたが高齢者（シニア世代）になったとき、それまでの仕事や趣味を通して学んだ知識を、仕事以外のどんな場面で生かせると思いますか。（2つまで○）（※複数回答有）

	度数	パーセント	有効パーセント	累計パーセント
1 職業に関する専門知識や仕事の内容を教えることができる	141	19.3%	21.0%	21.0%
2 礼儀作法を教えることができる	34	4.7%	5.1%	26.0%
3 子育て支援ができる	74	10.2%	11.0%	37.0%
4 スポーツやレクリエーションの知識や技術を教えることができる	56	7.7%	8.3%	45.3%
5 学校の授業や部活動などの役に立てる	32	4.4%	4.8%	50.1%
6 雇用の延長や再就職、シルバー人材など収入を得るために役立つ	137	18.8%	20.4%	70.4%
7 その他	23	3.2%	3.4%	73.8%
8 生かせることはないと思う	176	24.1%	26.2%	100.0%
合計	673	92.3%	100.0%	
欠損値	無回答	56	7.7%	
合計	729	100.0%		

問10-①		あなたが現在住んでいる地域で、あなたと異なる世代の方々と交流する場面はありますか。(いずれか1つに○)			
		度数	パーセント	有効パーセント	累計パーセント
	1 はい	374	64.5%	65.3%	65.3%
	2 いいえ	199	34.3%	34.7%	100.0%
	合計	573	98.8%	100.0%	
欠損値	無回答	7	1.2%		
合計		580	100.0%		

問10-②		子どもたちや若者など、あなたより年下の世代と交流がある場合、それはどんな場面ですか。(いずれか1つに○) (※複数回答有)			
		度数	パーセント	有効パーセント	累計パーセント
	1 PTA活動での関わり	54	11.0%	11.8%	11.8%
	2 スポーツ少年団等での指導やアドバイス	17	3.5%	3.7%	15.5%
	3 学校の部活動でのコーチや指導	20	4.1%	4.4%	19.9%
	4 清掃などの町内会活動	109	22.2%	23.9%	43.8%
	5 放課後や休日の一時預かりや勉強のサポート	6	1.2%	1.3%	45.1%
	6 地域の伝統芸能の継承	8	1.6%	1.8%	46.8%
	7 地域のお祭りや行事	111	22.7%	24.3%	71.1%
	8 共通の趣味	87	17.8%	19.0%	90.2%
	9 交通安全, 防犯の見守り	21	4.3%	4.6%	94.7%
	10 その他	24	4.9%	5.3%	100.0%
	合計	457	93.3%	100.0%	
欠損値	無回答	33	6.7%		
合計		490	100.0%		

問10-③		高齢者など、あなたより年上の世代と交流がある場合、それはどんな場面ですか。(いずれか1つに○) (※複数回答有)			
		度数	パーセント	有効パーセント	累計パーセント
	1 清掃などの町内会活動	173	35.7%	37.3%	37.3%
	2 お祭りや地域行事	91	18.8%	19.6%	56.9%
	3 高齢福祉に関する手助け	20	4.1%	4.3%	61.2%
	4 共通の学習活動(例:郷土史, 語学, 資格等)	2	0.4%	0.4%	61.6%
	5 子どもの活動を介した関わり	19	3.9%	4.1%	65.7%
	6 地域の伝統芸能の継承	7	1.4%	1.5%	67.2%
	7 共通の趣味	109	22.5%	23.5%	90.7%
	8 交通安全, 防犯の見守り	15	3.1%	3.2%	94.0%
	9 その他	28	5.8%	6.0%	100.0%
	合計	464	95.7%	100.0%	
欠損値	無回答	21	4.3%		
合計		485	100.0%		

問11-①		あなたは高齢者(シニア世代)になったとき、あなたと異なる世代の方々と交流や協働は必要だと思いますか。(いずれか1つに○)			
		度数	パーセント	有効パーセント	累計パーセント
	1 はい	506	87.2%	88.0%	88.0%
	2 いいえ	69	11.9%	12.0%	100.0%
	合計	575	99.1%	100.0%	
欠損値	無回答	5	0.9%		
合計		580	100.0%		

問11-②		どんな内容の交流や協働ができると思いますか。(あてはまるものすべてに○) (※複数回答有)			
		度数	パーセント	有効パーセント	累計パーセント
	1 高齢者や障害を持つ片の手助け	160	10.5%	10.5%	10.5%
	2 子育て支援	133	8.7%	8.7%	19.2%
	3 子どもの健全な育成やPTA活動	81	5.3%	5.3%	24.5%
	4 地域づくり・まちづくり	157	10.3%	10.3%	34.8%
	5 文化, 芸術, 伝統芸能	81	5.3%	5.3%	40.2%
	6 スポーツ, レクリエーション	128	8.4%	8.4%	48.6%
	7 清掃, 環境保護活動	207	13.6%	13.6%	62.1%
	8 町内会, 自治会活動	162	10.6%	10.6%	72.8%
	9 防犯, 交通安全運動	88	5.8%	5.8%	78.5%
	10 地域のお祭りや行事	180	11.8%	11.8%	90.4%
	11 国際交流, 親善活動	39	2.6%	2.6%	92.9%
	12 現在の仕事を生かした講師やアドバイス	56	3.7%	3.7%	96.6%
	13 その他	6	0.4%	0.4%	97.0%
	14 わからない	46	3.0%	3.0%	100.0%
	合計	1524	99.9%	100.0%	
欠損値	無回答	1	0.1%		
合計		1525	100.0%		

問11-③		必要ないと思うのはなぜですか。(いずれか1つに○) (※複数回答有)			
		度数	パーセント	有効パーセント	累計パーセント
	1 仕事や家庭のことで忙しく余裕がない	22	28.2%	28.6%	28.6%
	2 自分でなくても周囲が十分やっている	5	6.4%	6.5%	35.1%
	3 人との関わりを広げることが億劫だ	25	32.1%	32.5%	67.5%
	4 自分にできそうな内容が近くにない	4	5.1%	5.2%	72.7%
	5 どこに話したり申し込みをすればいいかわからない	3	3.8%	3.9%	76.6%
	6 どこでどんな活動があり、どんな人が求められているかわからない	13	16.7%	16.9%	93.5%
	7 その他	5	6.4%	6.5%	100.0%
	合計	77	98.7%	100.0%	
欠損値	無回答	1	1.3%		
合計		78	100.0%		

2 調査票

県民のみなさまへ

青森県
教育委員会

プレ・シニア世代の社会参加活動に関する調査

【アンケート調査へご協力のお願い】

青森県教育庁生涯学習課では、生涯学習・社会教育総合調査研究の一環として、一般県民のみなさまのお考えやご意見等をお伺いするアンケート調査を実施しており、事業の企画立案のため活用しております。

このたび、いわゆるシニア世代^{※1}が地域における活動に参加する際に、行政としてどのようなお手伝いをすればいいのを探り、今後の県の取組の参考にさせていただくため、これからシニア世代を迎えようとする方々（本調査ではプレ・シニア世代^{※2}と定義）にご意見を伺うことを目的とする調査を実施することになりました。

なお、この調査は「無記名」です。お答えいただいた方のお名前はわかりませんので、みなさまの率直なお考えをお聞かせください。調査結果は、今後の施策あるいは事業の参考とさせていただくとともに、青森県教育委員会のホームページ(<http://www.pref.aomori.lg.jp/bunka/education/>)に掲載します。報告書として冊子にしたものは関係機関へ送付して、広く周知する予定です。

つきましては、調査の趣旨をご理解いただき、是非ともご協力をお願い申し上げます。

本調査は、青森県教育庁生涯学習課が調査主体として実施するものです。アンケートの送付・回収等は、業務の一部委託により、「株式会社サンブラッソ・エイティープイ」が実施いたします。

※1 シニア世代 … 明確な定義はありませんが、概ね60歳以上を指しています。

※2 プレ・シニア世代 … シニア世代の一手前の世代を指し、本調査では45歳から59歳までの年齢層としました。

【ご記入にあたって】

- この調査は無記名です。（あなたのお名前を書くところはありません）
- 必ず、宛名の**ご本人**がご回答くださるようお願いいたします。
- 回答は、この**調査用紙に、直接**、ご記入ください。

【ご返送のお願い】

お手数ですが、同封の返信用封筒（切手不要）に入れて、平成26年1月31日までに投函して下さるようお願いいたします。

この調査の対象者は、公職選挙法28条の3に基づき、みなさまがお住まいの市町村の許可を得て、選挙人名簿から無作為に選ばせていただきました。

【調査実施に関するお問い合わせ先】

株式会社サンブラッソ・エイティープイ 〒038-0011 青森市篠田二丁目3-17
担当者：木山 TEL 017-762-7010 受付：平日9:00～17:00

問1 あなたの性別と年齢及びお住まいの地域を教えてください。

- | | |
|--------------------|--------------------------|
| 1 男性 | 3 45歳～49歳 |
| 2 女性（1か2のいずれか1つに○） | 4 50歳～54歳 |
| | 5 55歳～59歳（3から5のいずれか1つに○） |
| 6 東青地区 | 7 西北地区 |
| 8 中南地区 | 9 上北地区 |
| 10 下北地区 | 11 三八地区 |
| （6から11のいずれか1つに○） | |
| | 12 市に在住 |
| | 13 町に在住 |
| | 14 村に在住（12から14のいずれか1つに○） |

問2 あなたのご職業について教えてください。(いずれか1つに○)

- 1 管理的職業 2 専門的、技術的職業 3 事務職 4 販売職 5 サービス職 6 保安職
7 農林漁業 8 生産工程作業、労務管理 9 輸送、機械運転 10 建設、採掘
11 運搬、清掃、包装等 12 公務員、教員等 13 上記以外

問3 あなたの趣味と、資格があれば教えてください。(あてはまるものすべてに○)

趣味の選択肢

- 1 スポーツ(観戦、実践) 2 健康、エクササイズ
3 芸術(観賞、創作) 4 音楽(観賞、演奏)
5 園芸、ガーデニング、盆栽 6 手芸
7 コンピュータ、ゲーム 8 料理、食べ歩き
9 大工、DIY 10 伝統(茶道、華道、書道)
11 収集、コレクション 12 釣り
13 製作(模型、パズル、ペーパークラフト)
14 旅、温泉めぐり
15 学問、語学(英会話、読書、歴史) 16 その他

資格の選択肢

- a 仕事に関するもの
b 趣味に関するもの
c 家庭生活に関するもの
d その他

※自動車運転免許を除きます。

※仕事に関するもののうち、資格がなければ仕事をするのでない専門的な資格(例えば教員免許や医師免許など)は除きます。

問4-① 最近(回答日以前の半年間程度)、仕事以外で地域活動や社会貢献活動に参加したことがありますか。(いずれか1つに○)

- 1 はい(問4-②と問4-③にお答えください) 2 いいえ(問4-④にお進みください)

問4-② 参加したのはどんな活動ですか。(あてはまるものすべてに○)

- 1 高齢者や障害を持つ方の手助け 2 子育て支援 3 子どもの健全な育成やPTA活動
4 地域づくり・まちづくり 5 文化、芸術、伝統芸能 6 スポーツ、レクリエーション
7 清掃、環境保護活動 8 町内会、自治会活動 9 防犯、交通安全運動
10 地域のお祭りや行事 11 国際交流、親善活動 12 その他

問4-③ 活動に参加したきっかけは何ですか。(2つまで○)

- 1 もともと興味や問題意識を持っていて、機会を待っていた
2 県や市町村の広報やチラシ、ホームページを見て興味を持った
3 持っている資格や趣味、特技を生かしたいと思った
4 活動の主体となっている人から参加を要請された
5 自治会や町内会に誘われた 6 友人や知人に誘われた 7 家族に勧められた 8 その他

問4-④ 参加しなかった理由は何ですか。(2つまで○)

- 1 仕事が忙しかった 2 家庭のことで忙しかった 3 友人や知人に誘われなかった
4 人間関係や近所づきあいを広げたくなかった
5 何かしらの責任や役目を負わされそうと思った
6 広報やチラシなどの情報が届かなかった(見逃した)
7 これまで参加したことがないから 8 近所に興味のある活動がなかった
9 そもそも地域での活動や社会貢献に興味がない 10 その他

問5 最近(回答日以前の半年間程度)、社会教育施設*を利用しましたか。どのような目的で利用したのか選んでください。(あてはまるものすべてに○) ※別添資料「県内の社会教育施設一覧(県教育庁生涯学習課所掌分)」をご覧ください。

- 1 地域活動に役立てるため 2 自分の趣味や教養を深めるため 3 仕事に役立てるため
4 家庭生活を豊かにするため 5 健康や体力づくりのため 6 人との付き合いを広げるため
7 待ち合わせや休憩のため 8 その他 9 利用していない

問6 最近（回答日以前の半年間程度）、何かの講座やセミナー等に参加しましたか。強く印象に残っている、あるいは非常に参考になったと感じている学習活動について選んでください。（3つまで○）

- 1 職業上必要な知識や技能の習得、資格の取得など
- 2 芸術や茶華道、囲碁や将棋など、趣味的なもの
- 3 料理や裁縫など、家庭生活に役立つもの
- 4 語学や歴史など、教養的なもの
- 5 健康的な生活やスポーツ・レクリエーションなどに関するもの
- 6 情報端末やコンピュータ、インターネットに関するもの
- 7 社会問題や時事問題、環境問題などに関するもの
- 8 育児や家庭教育、教育問題に関するもの
- 9 ボランティア活動やNPOのために必要な知識や技能に関するもの
- 10 自然体験や生活体験などの体験活動
- 11 地域づくり・まちづくりに関するもの
- 12 その他
- 13 参加していない

問7-① あなたが高齢者（シニア世代）になったとき、地域活動や社会貢献活動に参加したいと思いますか。（いずれか1つに○）

- 1 はい（問7-②にお答えください）
- 2 いいえ（問7-③にお進みください）

問7-② どんな活動に参加したいですか。（あてはまるものすべてに○）

- 1 高齢者や障害を持つ方の手助け
- 2 子育て支援
- 3 子どもの健全な育成やPTA活動
- 4 地域づくり・まちづくり
- 5 文化、芸術、伝統芸能
- 6 スポーツ、レクリエーション
- 7 清掃、環境保護活動
- 8 町内会、自治会活動
- 9 防犯、交通安全運動
- 10 地域のお祭りや行事
- 11 国際交流、親善活動
- 12 その他

問7-③ 参加が難しいと思う場合、参加するための条件は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

- 1 体調がよいこと
- 2 時間に余裕があること
- 3 経済的負担が軽いこと
- 4 興味のある活動があること
- 5 堅苦しさがなく、気軽に参加できること
- 6 わかりやすい広報がされていること
- 7 表彰されたり評価されること
- 8 活動者からの誘いがあること
- 9 条件に関わらず参加したくない
- 10 その他

問8-① あなたが高齢者（シニア世代）になったとき、それまでの仕事や趣味を通して学んだ知識を、発表したり表現したいと思いませんか。（いずれか1つに○）

- 1 はい（問8-②にお答えください）
- 2 いいえ（問9にお進みください）

問8-② 発表や表現の方法として、どんなことが考えられますか。（2つまで○）

- 1 講演会や講座、セミナー等で講師を務める
- 2 講座やセミナーを主催する
- 3 展示会や即売会で披露する
- 4 職場の後輩に教える
- 5 仲間を募り団体や活動グループを主宰する
- 6 団体やグループに所属して指導役になる
- 7 スポーツ少年団で教える
- 8 子ども会やPTA活動で子どもたちに教える
- 9 ITを利用して情報発信する
- 10 起業する
- 11 NPOを立ち上げる
- 12 町内会や自治会で役職を請け負う
- 13 その他

問9 あなたが高齢者（シニア世代）になったとき、それまでの仕事や趣味を通して学んだ知識を、仕事以外のどんな場面で生かせると思いませんか。（2つまで○）

- 1 職業に関する専門知識や仕事の内容を教えることができる
- 2 礼儀作法を教えることができる
- 3 子育て支援ができる
- 4 スポーツやレクリエーションの知識や技術を教えることができる
- 5 学校の授業や部活動などの役に立てる
- 6 雇用の延長や再就職、シルバー人材など収入を得るために役立つ
- 7 その他
- 8 生かせることはないと思う

問10-① あなたが現在住んでいる地域で、あなたと異なる世代の方々と交流する場面はありますか。
(いずれか1つに○)

- 1 はい (問10-②と問10-③にお答えください) 2 いいえ (問11-①にお進みください)

問10-② 子どもたちや若者など、あなたより年下の世代と交流がある場合、それはどんな場面ですか。
(いずれか1つに○)

- 1 PTA活動での関わり 2 スポーツ少年団等での指導やアドバイス
3 学校の部活動でのコーチや指導 4 清掃などの町内会活動
5 放課後や休日の一時預かりや勉強のサポート 6 地域の伝統芸能の継承
7 地域のお祭りや行事 8 共通の趣味 9 交通安全、防犯の見守り 10 その他

問10-③ 高齢者など、あなたより年上の世代と交流がある場合、それはどんな場面ですか。
(いずれか1つに○)

- 1 清掃などの町内会活動 2 お祭りや地域行事 3 高齢福祉に関する手助け
4 共通の学習活動 (例: 郷土史, 語学, 資格等) 5 子どもの活動を介した関わり
6 地域の伝統芸能の継承 7 共通の趣味 8 交通安全、防犯の見守り 9 その他

問11-① あなたは高齢者 (シニア世代) になったとき、あなたと異なる世代の方々との交流や協働は必要だと思いますか。
(いずれか1つに○)

- 1 はい (問11-②にお答えください) 2 いいえ (問11-③にお進みください)

問11-② どんな内容の交流や協働ができると思いますか。
(あてはまるものすべてに○)

- 1 高齢者や障害を持つ方の手助け 2 子育て支援 3 子どもの健全な育成やPTA活動
4 地域のまちづくり 5 文化、芸術、伝統芸能 6 スポーツ、レクリエーション
7 清掃、環境保護活動 8 町内会、自治会活動 9 防犯、交通安全運動
10 地域のお祭りや行事 11 国際交流、親善活動
12 現在の仕事を生かした講師やアドバイス 13 その他 14 わからない

問11-③ 必要ないと思うのはなぜですか。
(いずれか1つに○)

- 1 仕事や家庭のことで忙しく余裕がない 2 自分でなくても周囲が十分やっている
3 人との関わりを広げることが億劫だ 4 自分にできそうな内容が近くにない
5 どこに話したり申し込みをすればいいかわからない
6 どこでどんな活動があり、どんな人が求められているのかわからない 7 その他

問12 高齢者 (シニア世代) が元気に生き生きと暮らせる社会にするためには、行政機関はどのような取組をすべきだと思いますか。ご自由にお書きください。

質問は以上で終わりです。ご協力ありがとうございました。
同封の封筒 (切手不要) に入れ、平成26年1月31日までに投函してください。

